

QL
406
H66
1914
MOLL.

SMITHSONIAN INSTITUTION LIBRARIES



3 9088 00682 1425

平瀨貝類博物館

創立開館 東宮行啓 東洋唯一 貝類標本 參考諸品 館內賣店 外國寄贈 位置眺望 趣味實益 獨力經營 觀覽料

貝類採集並ニ研究ニ從事スルコト二十有五年、大正二年三月二十二日開館同二十四日公開
大正二年三月三十一日 皇太子殿下並ニ二皇子殿下ノ行啓ヲ辱フス

本館ノ事業ハ東洋唯一ニシテ歐米ニモ未ダ貝類専門ノ博物館アルヲ聞カズ

學術的、工藝的、及ビ觀賞的標本ハ勿論珍貝奇介ノ陳列恰モ万花ノ美ヲ競フカ如シ

内外産貝類製品、及ビ貝類應用品頗ル多シ、例ヘバイタリヤ式彫刻各種貝細工、芝山細工、通貨、花瓶、織物、繪圖、圖案、菓子、陶器、漆器、刀劍、人形、玩具等ノ如シ

貝類標本各種、貝類製品各種、貝類應用品各種、貝類ニ關スル圖書繪葉書等多數アリ、土産贈物ニ適スルモノ多シ

ワシントン及ビニューヨーク博物館其他歐米學者ノ寄贈品多シ

本館ハ京都市動物園南ニアリ、館前ニ京電停留所アリ、交通至便樓上ニ休憩室アリ、汽水、動物園、東山等ノ眺望絶佳

貝類ハ學者美術家ノミナラズ、婦人、小供ニモ面白ク趣味ヲ養ヒ智識ヲ増シ甚ダ有益ナリ何人モ一覽アレ

本館ノ事業ハ館主ノ獨力經營ニシテ其ノ苦心容易ナラズ有志諸君ノ同情ヲ希望ス

大人五錢 小人三錢 團體二十人以上半額 五十人以上大人二錢小人一錢



(毎日開館毎月末日閉館 但シ十月ハ三十日ニ閉ゲ 末日開館)

京都市岡崎町動物園南

平瀨 介紹 官

電話上四一

234170

貝類博物館主平瀨與一郎特撰

● 普通教育用具類標本

發賣

右は中、小學校、高等女學校、及び師範學校等の各種教科書を参考として調製せしものなれば是等の學校には尤も必要と思はる全國各學校の需に應ずる考へを以て良標本を撰び且特に廉價を以て發賣す

甲組は直接の參考標本にして各教科書により撰びたるもの、乙組は甲組を補ふて貝類の分類を完からしむる爲め、丙組は右二組に組入ること難き大形貝類又は珍稀の種類にして而かも教授用に欠くこと能はざるものを彩色石版刷の圖書を以て一組となせるものなり

定價	甲組	乙組	丙組
五十種一組、木製箱二層入	說明書普通貝類の棗附	組(同上)	組(大形貝類彩色石版刷圖十二枚一組ボール紙製筒入)
金五圓	金五圓	金七圓	金十圓
		送料	送料
		甲、乙は五十錢	丙は十二錢

京都市上京區岡崎町動物園南

平瀨介館

電話 上四一七二番
編管口座東京 一二〇五二番

平瀨介館廣告

館主 平瀨 與 一 郎

(自宅 烏丸通蛤御門前 電話上九七四番)

位置 京都市岡崎町動物園南

(上京區岡崎町字塔ノ段六十三番地)

電話 上 四 一 七 二 番

振替 東京壹貳〇五貳番

照會 返信用郵券封入又は往復はがきのこと

大正三年九月十五日印刷
大正三年九月二十日發行

(定價金拾五錢)

京都市上京區烏丸通下長者町上ル 龍前町十四番戶

編輯者兼

平瀨 與 一 郎

印刷人

藤井重治郎

京都市三條通麩屋町角

印刷所

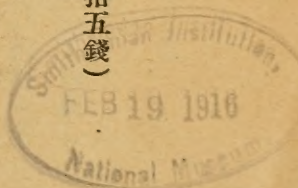
四日市印刷所

發行所

京都市岡崎町動物園南

平瀨 介 館

電話上四一七二 振替東京二二〇五二



正 誤

四十七頁下段十一行カブラツキガヒ科
をイセシラカヒ科と改む

普通貝類の葉終

る肉葉は水管を作り、眼は大きくして側面に位し、嗅官は小觸手より成れり、此類は全世界に分布し、深海に住み、そのイカ、タコ、タコフ子等と異なる所は觸手の多數にして吸盤なく、眞正の殻を有し、墨汁囊を欠ぎ、四ケの鰓を有するにあり。

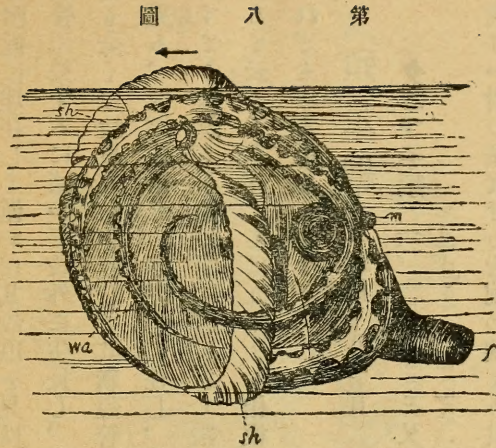
アムガヒ科は化石五屬と現生者一屬とを含み、アムガヒ屬は化石凡そ六百種と現生者六種とを含み、只アムガヒの一種のみ比較的多數にして世に知らる、我國にありては稀に琉球臺灣等の海濱に漂着するを見る、此動物は乳白色の地に

褐色及帶黄色の裝飾を有し、以て殻の斑紋との調和を保ち、恰も花椰菜を殻中に盛れるが如し。

此類は二千尺内外の深海に住み、腐敗せる軟動物質を緊捉貪食し、蟹の如き活動物を捉へしときは頭部を突出し二ケの角質嘴を見はして之を噛み破り、齒舌を以て其肉を咀嚼し、又珊瑚礁を出入して蟹類を追廻すを常とす、此殻は古來支那印度等にて七、杯、柄杓、瓶等に製し、現今にても鈕、カメオ等の原料となる。

褐色を帯び、表面の肋粗くして少數なり。

アフヒガヒ (Laeaze-Duthiers氏)



本圖は抽養せられし一標本の運動状態を示せるものにして、矢は運動の方面を示し、fは漏斗、mは頸を突出せる口、shは殻状卵槽にして諸腕を透見すべくwaは卵槽を抱ける蹠腕なり。

アフヒガヒは前種よりも大形にして卵槽狭く、白色を呈し、肋細密にして外縁は深褐を彩る。

(四總目—鸚鵡貝亞目)

アフムガヒ (鸚鵡貝) 類 (The Chambered

Nautilus)

此類の殻は大形、側扁、左右相稱にして内旋し表面は帶黄色の地に褐色の横帯を有し、内層は厚き眞珠質より成り、殻口大きく、螺旋部は多數の小房に分れ、其内には窒素に富める空氣を含めり、多數の學者は此瓦斯を以て水中にありて重量上の平均を保たしむるの用ありとなせど此問題は未だ全く確定するに至らず、而して拳大の動物は強き筋肉を以て最外の一大房内に附着し、生長するに従ひ、更に眞珠質の隔壁を生して順次外方に移住すと雖も各房間の交通は全く杜絶することなく、圍心腔より連る一條の膜管は該隔壁の中央を貫きて貝殻の後端に及ぶ、動物の頭部は圓錐形にして、二ケの強顎と一百ケに近き觸手とを有し、二ケの觸手相合して襖狀部をなし、又二ケの相重なりた

す。

ツツガキは雙殻小なれども其外套より分泌する喇叭狀長管は長さ六七寸に達し、雙殻は該管の底部附近に埋在して僅かに其殻頂を見はし、動物は殻管の長するに隨つて殻外に生長し、体内の諸器官も全く二枚貝式を超脱して其新殻管に適應するを見る、低潮線附近の砂泥中に住し、若し之を驚かすときは忽ち石礫の間に退居して掘出し難きに至ると云ふ、本邦にては九州より相模灘方面に産すれども寧ろ稀品に屬す。

(頭足 綱—二鰓目—八腕亞目)

タコフ子類

(The Argonaut 又は
"Paper Nautilus")

雌は一對の擴大せる背腕の端より貝殻狀の卵槽を分泌して之を保持す、該卵槽は左右相稱にして舟形を呈し、一對の龍骨を具へ、隆起脈と結節とを有し、磁質にして薄く、概ね帯白色にして種類

によりては時に其長徑八寸に至る、此物は動物の

外套膜より分泌せらるゝ眞の貝殻に非ざるを以て筋肉の之に附着せるものなく、自由に之を放棄することを得べし、雄は固より卵槽を有せず、其長さ凡そ一寸許、往々雌の十分の一に過ぎざることあり、雄の左方第三腕は生殖期に及べば變形して交接器となり雌の外套腔内に殘さるゝを常とするを以て初は之を寄生蟲ならんと誤解したり、雌動物は大形にして無柄の吸盤を具ふる八腕を有し、年中大抵其卵槽を緊抱して海底を匍匐し、其海上に浮游するは寧ろ稀有の遊興にして、決して世人の迷信するが如く其蹠狀の脚を揚げて帆となすことなく只だ他の頭足類と同じく噴水管より水を噴き其反動によりて水中を逆行し、物に驚くときは凡体を卵槽内に退縮して水底に沈降す、此類には凡五種あれども我國には只左の二種を産するのみ。

タコフ子は小形にして卵槽は比較的に廣く、灰

第六圖



フナクヒムシ(メビウス氏)、a、貝殻、b、體を包圍する石灰質の管
c、殼質瓣、d、水管、

分れ、兩片の間に間隙を有し、鉸鏤には籠狀の内突起あり、動物は蠕形にして、其外套膜より殻質を分泌して竇穴の内面を被ひ、二ヶの長水管は殆んど其末端に至るまで癒合し、其先端には殻質の瓣を具へ、水管孔は總を有す、温帯地方にありては其長六寸に過ぎざれども熱帯にありては往々二尺に達するものありと云ふ。

フナクヒムシ屬は現生種二十一種、化石二十四種を有し、最も普通なるはフナクヒムシにして長さ一尺ばかり往々二尺五寸に達することあり、よくチーク、樺の如き堅材をも木理に従つて侵害し、

若し他の穿孔に近づくときは忽ち其方向を變するを以て、外觀少しも蟲壞の跡なきに内部は已に蜂窠狀を呈せること屢々之れあり、難破の船材の如きは四五月間

にしてよく之を蝕し了るを以て海中の障礙物等を掃除するの功は頗る顯著なりと雖も從て船底埠頭の強敵たるを免れず、近時和蘭等にては堤防用の木材は必ず一度之を酸化鐵の溶液中に侵し以て此貝の侵蝕を防ぐに至れり、我室蘭港の如きも現に此貝の侵害に苦みつゝあれば遂に何等かの方法を講せざるを得ざるに至るや必せり、蓋し此貝の浮木、沈材、船底、橋柱等を侵すやキクヒムシ(等脚類)の如く之を嗜食するに非ず、只其住居を營むのみにして殻は洞の内端を占め水管を表面に出し呼吸を營むと共に觸角の作用をなすを以て其實フナ

生長線は銅色なり。

アゲマキ(鱧)は前種と同科別屬にして殻の両端は前種の如く截切状をなさずして圓く、背縁の中央に三齒と二齒との嵌合より成れる鉸鏢を有し、水管は前種よりも長し、長さ凡そ三四寸、九州有明海、岡山縣兒島灣等に饒産し、其肉は美味にして食用に供せられ、乾製或は罐詰として支那に輸出せらる。

(フオラス亞目)

カモメガヒ類 (The Piddocks)

此類は殼質脆薄、白色にして、両端開き、前部に鏢狀の彫刻を有し、鉸鏢線に齒或は韌帶を欠げらるも、往々小形の補板殻を具ふることあり。

ニホガヒは海濱の泥岩中に穿孔して其中に棲息せる白色の貝にして殻の鏢狀部を使用して機械的に穿孔すと云ひ、或は酸液を分泌して岩石を浸蝕すと云ひ、未だ何れか眞なるやを知らざれども、

電氣或は酸化作用によりて此動物が發光するは明かなる事實なりとす、彼の有名なる伊太利國セラピスの堂の石柱の穿孔も亦此類の作用にかゝると云ふ。

ウミタケは中國、九州等の泥海に産し、其長大にして外面黑色なる水管を乾製すれば鰯に代用すべく、又之を延長して熨斗を製すべく、其内臟と共に養食すれば頗る甘味なり。

第五圖



(圖原)ヒガメモカ

カモメガヒは**ニホガヒ**及**ウミタケ**と同科別屬にして其殻は**ニホガヒ**よりも大きく略ぼ卵形を呈し開口部狭く、鏢狀部の外に更に細脈を刻せる部あり。

フナクヒムシ類 (The Ship Worms)

此類の殻は球狀を呈し、左右の殻片は各三葉に

す、殊に干潮の際には地下に其水管を収め、往々水を噴出するを見る、五六月頃産卵す、外國にても之を食用に供する所ありと云ふ。

カモジガヒ類

外套は大部分閉ぢ、兩水管は長くして全部合一し、第四の後足外套孔を有す、足は稍や大きく、側扁にして、殻形長く、套痕の灣入深く、兩殻に韌帯の爲めの匙狀突起を具ふ、もと殻形の類似するところより**バカガヒ**科に編入せられしが最近これと分離せらるゝに至れり。

ミルクヒ(西施舌("Washington Clam"))は海底に生ずる水松みよを食するにより水松喰と名くと云ふ、殻は長さ五寸に達し、**オホノガヒ**に似て楕圓形をなし、前後兩端開け、表面は暗褐色にして内面白く、鉸鏢の主齒は前方に一ヶ、後方に二ヶあり、水管長く、表皮を被り、好んで淺海の砂泥中に埋棲し、専ら東海道に産す。

マテガヒ類(竹蛭、馬刀、カミノリガヒ)

(The Razor Shells)

此類の殻は狭長にして直く、兩殻片の前端に各一ヶ宛の齒を有し、外套膜は兩端開ける韌帯をなし、前端よりは足を出し、後端よりは水管を出し、垂直の位置をとりて海底の砂中に埋棲す、若し一撮の食鹽を其穴に投せば動物は忽ち殻の一端を穴口に見はし、其刺激を去らんが爲めに水を噴出するを常とす、然れども此際之を捕り逃すときは、たとひ再三食鹽を投するも決して再び出で來ることなし、**ロマネス氏**は**マテガヒ**の此所爲を以て經驗によりて習慣を變ずるものとなし、**マテガヒ**の如き下等の動物にありても已に理性の初歩を見ることを得と論せり。

マテガヒは白色の殻上に黄角色の表皮を被り、長凡そ四寸、**オホマテガヒ**は長四五寸に及び、**アカマテガヒ**は表皮を脱するも猶ほ帶黄色を呈し、

てを有するもの無きに非ず。

サルノカシラは其片殻を以て岩石等に着生し、不規則なる馬蹄形をなし他の殻片は其蓋狀をなす殻頂は左旋して左方に傾き、殻面には多く外物を附着す、殻頂右旋して右方に傾ける近似の種をキクザルと稱す共に本邦中部の産なり。

(大野貝亞目)

マスホガヒ類 (The Sunset Shells)

動物は連合せざる長さ水管と大なる足を有し貝絲を有せず、両殻片は相等しく、長卵形をなし、両端少しく開き、著しき外靱帶を具へ、各殻片に二ヶ宛の主齒を有し、側齒を欠ぎ、灣入深し。

マスホガヒは長楕圓形にして放射脈を有せず只曖昧なる紫色或は橙色の放射線を畫き、裏面は白色にして表面の彩色を透現し、或は美しき紫色橙色等の放射狀彩色を有するものあり。

イソシベミは**マスホガヒ**よりも短形扁平にして

楕圓形を呈し、光澤ある淡栗色の表皮を被り、内面は紫色を帯び、長一寸五六分、本邦の中部及北部に産す。

オホノガヒ類 (The Soft-shelled Clams

"Sand Clams" 英國の市場

こつは "Sand Gaper" 或は

"Old Maid" と稱す)

殻質強厚にして殻の後方開き左方に一ヶの筧狀軟骨突起を有し、表皮は皺狀を呈す。

オホノガヒの殻は楕圓形をなし、長二三寸、左殼に七首狀突起を具へ其下に内靱帶ありて鉸鏃に齒なし、套痕の灣入大きく、表面は灰白色を呈し、表皮は薄くして剝げ易く、内面は白色なり、殻の後端は前端よりも狭くして間隙を有し、其所より出る両水管は相合して一本となり、伸張すれば全殻長の四倍に達し、收縮するも其全部を殻内に收むる能はず、此具は淡水の注入する深さ五六尺以下の淺海を好み、礫礁の間に潜伏し、只水管の先端を露

にして、殻頂は多少螺旋状をなし、両殻片中央の龍骨には鋸齒状突起を有し恰も葵葉状或は心臟形を呈す。

シヤコ(神磯)類(The Furbelowed Clams)

此類の殻は重厚堅固にして扇形をなし、強大なる放射肋を有し、殻頂の前方には茸毛及足を出すべき孔を開き、鉸鏢には一主齒、一側齒を具ふ、動物は彩色鮮麗にして、青き外套膜縁に黄綠色の數眼点を飾り、其中心に鮮紫色を點し、虹彩閃々、斑紋壯麗にして、其海底に群棲せる美觀は恰も鬱金香の花園を見るが如し。

シヤコ("Giant Tridacna")は貝類中の最大なる者にして長さ四尺五寸重さ六十貫に達し、殻質瑩白なれば切りて種々の裝飾品を製し、古より七寶中に數へらる、又全体のみ、植木鉢、水盤等に使用せられ、其肉は重さ往々三貫に及び頗る美味なりと云ふ。

(菊嶺亞目)

サルノカシラ類(The Rock Oysters)

殻質厚く、殻形不規則にして圓みを帯び、両殻片は不等にして刺、鱗、或は薄板を飾り、殻頂は亞螺状を呈し、鉸鏢は一方に一齒、他方に一凹所(或は二齒と見るを得べし)を具へて互に相關節し、靱帯は殻外に位し、外套は閉ぢ、鰓は四ヶありて相等しからず、足及水管小なり。

キクサル科の大部は現今已に絶滅に歸し、キクサル屬は現生者五十種化石四十種内外あり、本邦産現生者は約五種に過ぎず、熱帯にありては珊瑚礁等に附着して五十乃至百尋の海底に棲息し、好で石間等の隘所に住し自から其束縛に甘じ生長の餘裕なきものゝ如く、刺等の彫刻磨滅し、往々其上に海藻を生じ、海底の沈渣に蔽はれ、外面の美觀は全く見る可からず、然れども最良の境遇にありて生長せしものには往々鮮麗なる彩色と精巧なる刺

暗色なり、長凡一寸五分、日本中部に産しハマケリよりも美味なりと云ふ。

アサリはハマケリと同科別屬にして、殻面に粗糙なる布目狀の彫刻を有し、概して淡褐色の地に種々の白斑を雜へ鉸鏤に側齒なく、蛤よりも鹽分多き水と砂多き海底とを好むが如く、三月五月の間に産卵す、其紅色なるを**ベニアサリ**、黄色なるを**ヤマフキ**など、俗稱し、往々紫色を彩るものもあれど皆同一種にして、諸種の彩色は其住所に對する保護色なるべし。

スタレガヒは長楕圓形の殻を有し、殻面に密接せる著大の渦狀肋を刻し、肉褐色の地に斷續せる栗色の放射帶を畫き、内面は白色なり、之に似て小さく、外面稍や滑かにして、内面の中央に淡紅色を彩るを**ヒメスタレ**と云ふ。

(カルデイウム亞目)

サルガヒ類

(The Cockles 或は "Heart Shells")

此類は足及水管長く、貝絲を欠ぎ、殻は多少の放射肋を有し、各殻片の鉸鏤に一二ケの主齒を具へ側齒は變化多く、韌帶は殻外に位し、半鹹水或は鹹水に産す。

トリガヒは殻質脆薄略ぼ圓形をなして脹れ、長さ二三寸、鉸鏤には一ケの主齒と前後二ケの側齒とを具へ、表面には鱗片狀の低放射肋を刻し、淡黄色の表皮を被り、帶黄白色にして殻頂に微紅色を彩る、内面は肉紅色を帯び縁邊は濃紅色を呈す、我國各地に産し、瀬戸内海、伊勢海等に多く、海底の砂泥中に埋棲し、短き水管を以て呼吸し又排泄す、而して該水管の總狀縁にある黒点は其眼なりと云ふ、其肉は食用に供せられ、其肉柱は誠に美味なり、此貝の鳥貝と稱せらるゝ所以は其肉の味鶏肉に類するが故なりと云ふ。

リウキウアフヒは別亞屬に屬し、殻面に一銳龍骨を縦に見はし前後に甚しく壓縮せられたる奇貝

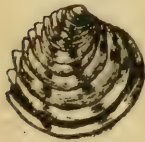
瀬戸内海等に多く産し、古來歌人の咏題となる。

オキシミは略ぼ圓形を呈し、鉸鏢に三ヶの齒を具へ、表面に黃褐色の表皮を被り、著しき渦脈と曖昧なる放射細脈とを有し、内面は白色なれども内層の彩色を透現して淡堇色を呈し、多少シミに似たるを以て**オキシミ**と稱す、殻縁に細齒を刻し、本邦中部及南部より支那、朝鮮にも産し、又化石として多く産す。

オニアサリは殻質重厚にして**アサリ**よりも殻形脹れて短く、鉸鏢に三齒を具へ殻縁に細齒を有し、淡褐色の殻面に粗き放射肋と不規則なる渦脈とを刻し、多少**アカガヒ**、**ハイガヒ**状をなし、稍や瓦壘の觀を呈し、寔に鬼淺蛸の名に背かず、長一寸四五分、日本中部に産す。

ハナガヒは蛤、**アサリ**及**スタレガヒ**等と同科別屬にして長さ五分に満たず、殻面に薄板状の

第 四 圖



ハナガヒ(原圖)

渦肋ありて、一見兜の鏝に似たり、白色にして、各肋の下面に中央及前後の三紫斑を有し、殻の腹方より斜に之を窺へば相連りて三條の放射帶をなす美麗なれども標品稀なり、往々**シコロガヒ**(靱貝)を花貝と稱する者あれども該種は花貝よりも著しく大形にして渦肋低し、屢々花貝櫻貝と連稱するを以て誤りて櫻貝の類となす者多し、某動物教科書には**ハナガヒ**を「造花等に用ふ」とあれど、さほど饒産するを知らず、貝細工に最も多く用ひらるゝものは**ウメノハナガヒ**なるべし、該種は**カアラツキガヒ**科に屬し、小形純白にして其片殻は恰も梅花の一瓣の如く、多く貝細工の地を張り、鳥の胸腹の羽毛等に擬す。

オキアサリは殻形**ハマグリ**に似るも更に扁平にして三角形に近く、前方圓く、後方稍や尖り、彩色種々あれども大抵白色乃至淡褐色の地に暗色の放射帶、線紋或は山形紋を有し、後側面は概して

(ベヌス亞目)

ハマグリ(文蛤類) (The Venus Clams)

殻の鉸鏝は大抵両片に三ヶ宛の分開せる齒を有し、肉柱痕は卵形にして光澤強し、種類頗る多く、形狀、彫刻、彩色等の變化亦頗る多く、其壯麗なること二枚貝に冠たり。

ハマグリの殻は略ぼ三角形をなし、表面平滑にして陶器の如く、主齒三ヶ、側齒は前方に一ヶあるのみ、其暗栗色にして花紋なきをアアラハマグリと稱し、長さ二三分にして紋形一定せざるをコハマグリと稱へ、基石大にして黒色或は白色なるをゴイシハマグリと云ひ、長さ三四寸にして厚質白色基石製造の原料となるをテウセンハマグリと呼ぶも皆異名同物に外ならず、東海道、瀬戸内海及西南地方に饒産し、奥羽以北、日本海沿岸に稀なり、淡水の流入する砂泥の海底に棲息し、其強壯なる足を用ひて活潑に運動し、往々其住所を轉ず、

五月より九月までの間に産卵し生殖器の雌雄は識別し難し、肉は美味にして、殻は膏藥の容器、白基石、蛤粉の原料、貝覆、貝細工等に使用せらる。

ウチムラサキは殻質厚く、鉸鏝に三ヶの強き主齒を具へ長凡三寸、表面は帶黃汚白色にして不規則なる粗き渦脈を刻し、内面は暗紫色を呈し、諸痕明瞭なれば俗に之を天橋立に見たて橋立貝と稱し、天橋立附近にては稍や之を貴重するも瀬戸内海等にも多く之を産し敢て珍貝とするに足らず、肉は食用に供せらる米國ポルトランドの市場にては此屬の大形種をオレゴン蛤(Oregon clam)と稱し食用として賣買せり。

ワスレガヒは殻質厚く、扁平にして、卵形をなし、表面に彫刻なく、稍や厚き表皮を被るもこれを去れば淡紫色の地に紫色の數帶と細線とを有し甚だ美麗なり、内面は白色にして、前後の肉柱痕部と套痕部とに鮮紫色を彩り、殻縁に細齒を具ふ、

方は稍や尖りて平滑なり、内面は白色にして、其中央及後部は紫褐色を彩り、腹縁は細齒を刻す。

ナミノコは**フチノハナ**よりも大形にして内面は紫色を帯び腹縁に齒狀の彫刻を有せず。

ウバガヒ類 (The Surf Clams)

此類の殻は厚き表皮を被り、殻頂下にありて三角形をなせる軟骨の凹所はV字形の主齒にて縁とられ、套痕の灣入は淺くして圓し。

ウバガヒは一名**ホツキガヒ**と稱し、殻質厚く、脹らみたる橢圓形をなし長さ三寸餘、暗褐色の表皮を被れども殻頂は多く露出せり、内面白く、鉸鏃には一ヶの主齒と強大なる前後の側齒とありて左殼の側齒は分岐し、内靱帶は頗る大なり、北海道、三陸地方より常陸の東海に多く、其肉は美味にして、専ら乾して食用に供せらる。

バカミヒは**ウバガヒ**と同屬にして、殻質脆薄、長二寸五六分、表面は黃褐色の地に濃褐色の放射

線を有し、又曖昧なる渦脈を見る、左殼の齒は山形にして右殼の齒は著しからず、側齒稍や長し、足は紅色にして屈曲し、往々之を用ひて跳躍す、此貝は市場にありて往々口を開き舌狀の足を出し宛然痴人の舌を吐けるが如き觀を呈せるを以て馬鹿貝の名を得るに至りしならん、今や科學の力によりて其冤を雪がるゝに至りしも、此汚名は千古に之を改むること能はざるべし、此貝は主もに東海道に饒産し日本海及南方には少きが如し、肉は硬くして美味ならず、専ら肉柱を販賣す。

シホフキも亦**ウバガヒ**と同屬にして、殻は脹れたる卵圓形をなし、長さ一寸三分、鉸鏃の主齒は只一ヶありて、其後に内靱帶を具へ、側齒は前後にありて長く、表面に渦脈を刻し、淡褐色にして腹縁に淡紫色を彩り、表皮を去れば光澤甚だ美しく、殻は貝細工に用ひらる、専ら東海道に産し、肉は過軟にして上品ならず、四五月頃産卵す。

呈し、前方圓く、後方稍や尖り、全面に美麗なる渦脈を刻し、後方にありて最も著しく、後丘判然し、右殻片にありては後丘の直前に一條の凸部あり左殻片には之に對して一條の凹部あるを以て左右の両殻片は多少不等形となり後部に輕微なる一屈曲を現はし、内外共に白色なり、水管長く、其端に総を有せず、鰓小さく外者殊に發育不完全にして、後方に向へり、長凡そ一寸四五分、瀬戸内海、九州等に産す。

サクラガヒの殻は側扁にして長さ五六分、略ぼ楕圓形をなし、殻質脆薄にして光澤強く、内外共に鮮紅色を呈し、腹縁に平行して曖昧なる廣き白帯を有し又放射狀淡色帯あり。

ベニガヒは**サクラガヒ**に類似し色彩は稍や濃紅なり、長さ一二寸、細長にして、後端は尖りて少しく右方へ曲り、**サクラガヒ**と共に貝細工等に使用せらる、人々の誤りて花貝と稱するは或は本種

か前種なるべし。

ナミノコガヒ類 (The Wedge Shells)

此類は暖海の砂底に住し、殻は亞三角形をなし、平滑、堅固にして鉸鏢に二三ヶ宛の主齒を有し、側齒は變化多く、概して美麗なり、米國フロリダ州にては此類の肉を以て肉汁を製し、其殻を以て種々の貝細工を製し、又其殻を美麗なる絹絲に一寸内外の間隔を以て貫き之を戸口に懸くることありて、其美麗なるものに至りては五色燦爛名狀す可らず、今其一例を舉げんに眞紅の強き絹絲中に種々なる彩色を有せる數千ヶの貝殻をゆるく編み込みて小紋形の美麗なるモザイク模様を呈せしめ、人の出入する毎に珊珊一種の音樂を奏せしむるなどは眞に優美なる戸帳と稱す可く、其價三十弗に上ると云ふ。

フチノハナの殻は白色を呈し、其後側面は鏝狀の彫刻を有し、截切狀をなし、汚綠色を彩り、前

あるを知り、其殻内に外物を挿入して人工的に眞珠或は眞珠佛を作りしと云ふ。

メンカラスガヒは琵琶湖等に産し方言**メンガヒ**と稱し、鉸鏢に一側齒を具へ、其後方に翼狀部あり、表面黒く、内面は淡肉色を呈す、亦往々眞珠を出し、肉は貧民の食用となる、ブラジル國イヘーリング氏は本種の學名を *Cherubica Midd.* となす其正否は今俄かに斷じ難し。

イケテフガヒは方言**オンガヒ**と稱し形状、彩色、大さ、住所、效用共に**メンカラスガヒ**に酷似せるも殻質重厚にして幅狭く、耳部大きく、鉸鏢の齒は主齒左右各二ヶ、後側齒右に一ヶ、左に二ヶあり。

マツカサガヒは長さ凡二寸、殻面に皺襞を具へ、多少松毬狀の外觀を呈す、彩色、住所、效用共に**カラスガヒ**及**イケテフガヒ**等と同じ。

イシガヒは殻形細長にして表面は黒色を呈し平滑にして内面は銀色なり。

カハシンジュガヒは歐洲北米及亞細亞の北部に普通に産し、長楕圓形にして長さ四寸に達し、内面の眞珠質は青白或は淡紅を呈し我國にては北海道の諸川北上川等より飛彈邊に擴りて産し、日本西部には之を見ず、優秀なる眞珠を出すことありアイヌ土人は之を以て庖刀を製すと云ふ。

ドフガヒは**マツカサガヒ**及**イシガヒ**に似て殻質薄く、表面平滑にして鉸鏢に齒を有せず、長凡そ二寸五分本州の諸川に住す、此種と同屬のもの數種あり、琵琶湖、巨椋池等に産する稍や大形にして膨れたる**マルドフガヒ**は其一例なり。

(テリナ亞目)

サラガヒ類 (The Tellen Shells)

此類の殻は側扁にして両端閉ぢ、外靱帶を具へ、鉸鏢には大抵二ヶの主齒と前後各一ヶの側齒とを有し、套痕の灣入深く、殻の美麗なるもの多し。

イテフシラトリは殻形扁平にして略ば三角形を

ドフシジミ、以前はシジミ類と同科中に置れしが近時全く分離せらるゝに至れり、大さ大豆に等しく、殻面は灰色を呈し、細渦脈を刻し、淡水の泥底に棲息し本邦産にては此外なほ二種と一別屬と記載せらる。

カラスガヒ(蚌)類 (The Pearly Fresh-water Mussels)

此類の殻は眞珠質にして、黒褐色の厚き表皮を被り、鉸鏝に齒なく、或は一二の主齒を具へ、側齒は薄板状を呈す、往々眞珠を含み、殻は鉤鈕等製造の原料となり、肉は食用に供せらる、概して淡水底の軟泥中に棲息し、雌雄は異体或は同体にして、卵は母体の鰓葉内に在りて發育するを以て、該鰓葉は脹れて孵囊を成し、已に孵化せし幼蟲は雙殻を有して母体の外鰓葉の粘液中に留まり六ヶ月乃至一ヶ年を経るに非ざれば諸器官を生成することなく、粘液の涸盡するに及びて幼蟲は孵囊中より

水中に放出せられ、水底に仰臥し、粘絲を以て近づき來る魚体等に粘着し、各殻片の縁端に具ふる内曲せる鋸齒狀鈎を以て魚類の鱗端、鰭膜或は鰓絲等に緊着し、魚体より分泌せらるゝ粘質物に覆はれて其衛養分を吸収し、遂に其胞を破りて水底に落ち、成熟するに至る、然るに魚類中には往々此類の水管中に産卵して其鰓腔内にて發育する者あるを以て、此場合には動物共棲の好例を供するものと云ふべし、地球上には六十一屬、千種及約百變種あれども邦産は僅かに甘餘種に過ぎず。

カラスガヒは殻質脆薄にして長楕圓形をなし、長さ往々尺餘に達し、殻頂脹れ、其前後に耳狀部を有し、幼貝は黄地に褐紋を交へ、耳部殊に大きく、生長せしものは帶綠黑色にして殻頂浸蝕せられ、鉸鏝には後方に一大側齒を具ふるのみ、東洋の特産にして半鹹の潟等に多く、常陸霞ヶ浦は其名產地なり、古來支那にては此貝中に眞珠を含むこと

べく、廣き衿巻もよく小さき鼻煙盒かきたほこいれ中に納むることを得べしと云ふ、而して其色澤は一種の甲蟲の背色に酷似し、燦爛として多少黄金の色澤に類するを以て俗に「黄金布」の稱あり、然れども其原料少きを以て只高價の珍品として稀に西洋諸國の大博覽會等に該貝絲製の肩掛、衿巻、手套、長襪等を陳列するに過ぎず。

タヒラギの殻は略ぼ直三角形をなし、暗綠色を帶び、肉は甘味多く、肉柱頗る大きく、本邦中部及九州有明海等に産し、其養殖を圖る所ありと云ふ、其肉柱は罐詰となして諸所に輸出す。

(亞淡菜亞目)

シジミ(蜆)類

此類の殻は略ぼ小三角形をなし、暗褐色の表皮を被り内面は白色にして往々紫色を呈し、後閉殻筋痕の邊に淺き灣入を有す、鉸鏢には二三の主齒と一二の側齒とを有し、廓大鏡を以て、該側齒を檢

すれば細鋸齒を刻せるを見る、米人ピルスブリー氏は殻の外形、渦脈の大小粗密、側齒の傾斜及内面の彩色等に注意して本邦産シジミ屬を九種に分類せり。

マシジミは殻面の渦脈太くして粗く、幼貝は鮮黄なれども成長せしものは暗褐色なるを常とす、産地によりては多少綠色を帶び、褐色の斑紋を有す、長さ一寸二三分、高さ一寸内外、往々螺鈿に使用せられ、肉は剥身として販賣せらる。

セタシジミは殻質頗る厚く、高さ三角形をなし、殻頂大きくして突出し、鉸鏢は比較的に強厚なり、琵琶湖及瀬田川等に産し、橙黄色或は暗褐色を呈し、京都方面に販賣せらる。

ドフシジミ類 (The Sphere-shells)

外套は一水管或は簡單なる孔を開ける分離せる二水管を具へ、雌雄同体にして其仔は外鰓板中に抱かれ、殻は簡單なる外套線を有し、淡水産なり。

万五千圓、千葉縣、兵庫縣の一万圓等にして、年によりて増減あるを免れず、例へば明治卅八年の日本全國乾牡蛎輸出額は五十二万七千餘圓なりしも其翌年には十五万餘圓に下りたるが如し。

河流の汚物を排出する河口にありては牡蛎生長甚だ迅速なることありと雖も病源的生物を含有せること少なからざるを以て之を生食するは頗る危険の虞なきを得ず、また牡蛎の肉中に過分の銅を含有せし爲めに中毒を起せし例もありと云ふ。

牡蠣養殖の敵は殆んど枚擧に違なき程にて百十萬五千の幼蟲中よく生存を遂げ得る者は僅かに一ケの割合なりと云ふ、害敵の主要なる者は、大の魚類、蟹類、章魚類、海星類、カゴメガヒ類、ムシロガヒ類、ツメタガヒ類等にして、海綿、腔腸動物、海藻等も亦牡蠣に着生して之を窒息せしむることあり。

牡蠣の養殖は此頃益す研究を積み優に一科の學

問となり、政治上にも多少の關係を有し、蠣田の私有官有、漁期漁具の制限禁令、杙くわ或は浮標にて劃せる境界の問題等頗る繁雜を極むるに至れり。

タヒラギ(玉珧)類 (The Pen Shells "Sea

Wings", "Pin Shells"等)

此類は地球上到る所の暖海に産し其殻頂楔形を呈し、其質脆薄にして概して無數の鱗片狀突起を具へ、鉸鏢は其一側にありて齒なく、殻頂は前端に位し、靱帶は長溝内にありて後端は截切狀をなし、外套は二重の總を具へ、足は長くして強き貝絲を出して他物に附着す、伊太利國シチリア島の漁夫等は其海に産する一種の玉珧を其附着せる岩石より搔き落し、其貝絲を裂き取り、之を村婦等に販賣すれば、彼等は石鹼を用ひて之を洗ひ、梳くしすりて之を績ぎ、然る後此絲を以て其製せんと欲するところの物を織り或は編むときは其精巧絹布にも優り、其手套はよく胡桃殻内に納むるを得

四枚ありて外套膜に連り、貝絲、足及水管を欠ぐ、五十餘種ありて食用貝類中の最も有益なるものにして其殻は往々焼きて石灰を製す。

歐洲諸國にて主として食用に供するは *Osprea edulis* Linné にして幼時は殻形圓けれども生長するに従つて不規則となり長さ三乃至六寸雌雄同体なり、米國にて主として食用に供するは *O. virginica* Lister にしてチエサビーク灣を其養殖の中心とし、殻形稍や長く、其長さ六寸乃至一尺五寸に達し、雌雄異体なり。

我國にもカキ、イタボガキ、カキツバタ等數種を産す、**ナガガキ**は又**エソガキ**と稱し、長さ一尺五寸に達し、從來別種と考へられしも研究の結果全くカキの老成せるものなることを確むるに至れり、**イタボガキ**は形圓く殻頂餘り突出せず、他物に附着せずして多く砂泥中に離生し、其肉頗る美味なり、九州及瀬戸内海等に産す、**カキツバタ**は又**エダ**

ガキと稱し、概して海松等に着生し、雙殻共に不規則なる強肋を有し肋上に刺を具ふること**ウミギク**に似たり、紀伊、肥前等に産す、産卵期は四五月より七八月までの間にして此際牡蠣を食するときは往々中毒するとあり、一ケの親貝の産卵数は種類と學者とによりて三十万乃至六千万と計算せられ、幼蟲は纖毛を以て浮游し海水爲に混濁すと云ふ、廣島灣等にては簗を淺海中に樹て、此幼蟲を附着せしむ、かく附着したる幼貝は爾後移動することなく一ヶ月にして豆大となり、一ケ年にして一寸四五分となり、二年目より産卵し三年目に至れば已に食膳に上すに適し、四年目頃を生殖力最も盛なる時とし、壽命は凡そ十年なれども往々五十年に達するものありと云ふ、我國にて牡蠣養殖の最も盛なるは廣島地方にして凡そ二百年前に始まり、今や一年間の收獲百萬貫に上り其價格六七萬圓に達す之に次ぐは佐賀縣の四萬圓、熊本縣の一

し、此屬の動物は**ホタテガヒ**の如くに其殻片を開閉して水中を迅速に游泳すれども**ホタテガヒ**と異なり、鉸鏃部を前にして折線的に急躍す、象牙を彫刻して製したるが如き此類の幼貝が群泳するに當りてや橙黄色の外套膜より縋々と垂れたる帶黃紅色の無數の觸手を後方に靡け、往々二貝或は三貝の觸手互に粘着して雙々參々相伴ひて游泳し頗る美觀を呈すと云ふ、又此觸手は殻内に退縮すれば殻片の開口を守護せる強硬なる角の用をなすと云ふ、ゼツフレイブ博士其養魚槽に養ひし此類の觸角に其指を卷かれ暫時引き回せし後之を揮ひ落さんとせしも容易に落ちざりしかば、外套より數本の觸角を引きちざりしも其切れし觸角は猶ほ指より離れざりしと云ふ、此類は亦游泳を止め貝絲を出して他物に附着し、又隨意に之を離るゝことを得べし、多くは定着を好み、其殻の周圍に貝絲の蛛網を張り之に粘質物を塗り付け、更に殻屑、海

藻、珊瑚及礫を置くこと云ふ、不思議にも二三の幼者一巢中に住することあるも成長せるものは必ず一ヶ宛孤棲す、其住所は狭くして大に勞するに非ざれば其体を轉すること能はず、然れども巢の形、漏斗形を呈せるを以て容易に其身を上下に動かすことを得べし、故に蟹の類が徘徊し來る時、或は魚類が其餌を求めて近き來る時には直ちに其巢内に退縮することを得るなり。

ミノガヒは白色半圓形にして、彫刻粗く其鱗狀突起は覆瓦狀の觀を呈し、内面も亦白色なり、長凡二寸、時としては四寸を超ゆることあり、本邦中部以南に産す。

カキ(牡蠣)類 (The Oysters)

殻形不規則にして左殻大きく岩石等に附着し右殻は多少蓋狀をなす、鉸鏃に齒なく枕狀の軟骨を有し中央に一ヶの閉殻筋あり外套縁は二重の總狀をなし眼点を具ふ、心臟は直腸の前方に位し鰓は

に内靱帯を具へ、足は小形指状にして大なる貝絲腺を有し海底を掘るに適せず、外套膜開け、其縁は二重となりて總狀觸鬚を具へ、虹暈ある綠色の眼を列し亦海中の美觀なり、水管なく、往々群生して此貝の洲をなすことあり。

ホタテガヒは奥羽地方及北海道の名産にして、南方には産せず俗に之を秋田貝と稱し、左殻は淡紅褐色にして、往々紫色を帯び、古殻は白地に紅褐色の輪紋あり往々之を貝鍋に利用す、中央の肉柱は大形美味にして、若し生貝を其儘火上に置き、蓋を開くに及び、醬油を加へ箸を下せば一層美味なりと云ふ、乾して之を諸方に輸出するも其味生貝に比す可くもあらず、青森灣にありては濫獲の結果屢々絶滅に近づきしを以て屢々其漁獲を嚴禁せしことあり。

イタヤガヒは往々誤りて**ホタテガヒ**と稱せらるゝことあるも小形にして、左殻扁平、右殻甚しく

脹れ、十二三條の放射肋を具へ、外面は紅褐色を呈し、内面は白色なり、直經四寸餘、専ら南海に産し、東北地方には之を見ず、肉の美味**ホタテガヒ**に譲らず、殻は古來貝杓子として多く使用せらるゝを以て俗に之を杓子貝と稱す。

なほ此の類に屬するものには貝絲を以て岩礁等に着生するものに**ナデシコガヒ**、**シヨクコウノニシキ**、**ヒアフギ**等ありて何れも鮮麗なる色彩の變化に富めるを以て有名なり。

(正瓣鰓目—板甫鰓亞目)

ミノガヒ類 (The File Shells)

殻は斜卵形にして耳狀部を具へ、兩側開き、表面は大抵白くして放射肋を具へ、覆瓦狀の彫刻を有すれども、亦た平滑の種なきに非ず、鉸鏢に齒なく内方に三角形の軟骨窩を具へ、動物は外套膜開きて袋狀に膨れ、膜縁に總を有し、縁上に眼を具へ、足は指狀を呈し、鰓は四枚ありて兩側相等

び、其收獲高は殻を合して平均四百萬圓に上ると云ふ。

ツキヒガヒ類

鰓に鰓板間の連絡なく、殻は圓形にして外面平滑なるも内面には放射肋を見る、此類は今日まで多くの學者によりてイタヤガヒ科に編入せられたるものなり。

ツキヒガヒ ("Sun and Moon") は殻質薄く圓形にして扁平なり、表面平滑にして光澤強く、其一殻片は紫赤色をなして小さく、他片は淡黄白色にして稍々大きく、其肉は食用に供し、肉柱は殊に美味なり、殻色日月をかたごり外觀美麗なるを以て往々皿として使用せらるゝことあり。

ウミギク類 (The Thorny Oysters)

殻形不規則にして多くは右殻片を以て岩石等に附着し、殻面に刺或は葉狀鱗を具へ、鉸鏝には各殻片に二曲齒を有し、動物は外套開き、鰓は分離

し、足は小さくして圓筒狀を呈し、暖海に住す、ウミギク屬は現生者凡そ七十種、化石凡そ八十種あり、本邦産は數種に過ぎず。

ウミギク は大さ三寸に達し殻形チリボタンよりも正しく刺は其幅廣し、多く灰白色なれども、紅、黄等の美なる色彩を有するものもあり。

チリボタン は殻形不規則にして歪み放射肋よりは不規則なる短き鱗片狀刺を簇生し、表面及内縁は紅色或は紫褐色を呈し、内面は白色なり、大さ二寸内外にして中國、四國、九州等に産す。

イタヤガヒ類 (The Scallops)

此類の殻は両片不等にして放射肋を刻し、右殻深く、下方に位し左殻よりも平滑にして淡色なり、前後に耳狀部を有し、其顯著なる方は前方にして右殻の前耳下に一ヶの斷口あり、幼時は皆之より貝絲を出して着生せるも成長せる者は多く両殻を開閉して海中を游泳し又移住す、殻頂下の凹窩内

殻全体は大抵斜向すれども、殻頂は垂直にして前方に位し、耳狀部を具へ、後耳は翼狀を呈す、動物は足小さく、貝絲を出して外物に附着し、外套膜は癒合することなくして總を具ふ、化石千種、現生種百二十餘を數へ多く熱帶温帶に産す。

アコヤガヒは我邦の特産にして、東海道、瀬戸内海、西南海に多く、北方には産せず、殊に水清く、鹽分少く、潮流緩にして而も停滞せず、海底に砂礫多く、多少動植物の繁殖せる南向の暖海に適し、常に優等の眞珠を産するのみならず、其肉は食用となり、殻は鈕釦製造等の原料となるを以て、肥前の大村灣、志摩の英虞灣、淡路福良灣等に於ては盛に之を養殖す。

眞珠は昔尾張の知多郡阿古屋より多く産出せしによりアコヤの玉と名け、従て之を含める貝を**アコヤガヒ**と稱するに至りしものならん、眞珠生成に就ては諸説あれども其外物の入來に基くとす

は一なり、眞珠生成の中心を核と稱す、或は此核を砂粒なりとし、或は植物質なりとし、或は寄生蟲なりとし、或は卵子の類なりとす、而も實際に於ては此等種々の物質が核となり得るやも未だ測る可らざるなり、蓋し此等の微細なる物質が血管或は腎臓を通り外套膜内に進入して其組織内に留まり、外套膜より分泌する眞珠質に包まれ、こゝに美麗なる眞珠を形成せるものなるべし。

テフガヒは丁貝と書し、古書に**アコヤガヒ**の幼貝を蝶貝と云ひしとは別なり、外國産にして、琉球に産する黒丁貝即ち**アツガヒ**は其形狀本種に酷似せるも、其色澤青黒を帯び、本種の帶黄色なるが如くならず、二者共に精良なる眞珠を出し又廣く裝飾品を製するに用ひらる、**テフガヒ**及**アツガヒ**の名産地は木曜島、印度、波斯灣等にして、錫蘭島には政府の管轄に屬する眞珠採集所十ヶ所あり、波斯灣にては毎年夏期の採集船四五千隻に及

頭、棧橋、防波堤、流木、沈材、船底等に附着群生し、肉は食料、肥料、漁餌に供せられ、殻は貝細工に用ひらる。

此動物の移動するや其足の基部にある絲腺を壓して膠質物を拋出し、其凝固するを待ちて舊絲を切り去り、此方法を反覆して徐行す、其進行固より遅々たりと雖どもカキの終生固定せるに比すれば亦た一段の進歩と云はざるべからず。

米人は此類を食せざるも歐洲諸國にありては盛に之を養殖し其收益も亦巨額に達す。

イガヒは亦た**イノカヒ**、**セトガヒ**、**シウリ**などと稱し、殻質厚く、楔形を呈し黒褐色の表皮を被り、往々種々の生物の着生せることあり、内面は紫紅綠色を交へ、甲斐絹様の光澤を有し、眞珠を出すも、劣等なり、肉は赤色にして頗る美味なり、乾製して多少支那に輸出す。

ヒバリガヒは**イガヒ**よりも小形にして殻頂は前

端の少し後方に位し、略ぼ兩及楔形を呈し、後方に多少の毛茸を具へ、表面は淡栗色をなし、内面の前腹部は眞珠白色なれども、後背部は紫黒色を彩る、長凡そ一寸五分、本邦中部及南部に産す、本種の模式産地は歐洲なり。

ホトトギスは殻長七八分、兩及楔形を呈し、殻頂は前端の少し後方に位し、殻質薄く、表面は平滑、褐色にして、縁部其他に綠色を彩る、之れ郭公の名ある所以なるか。

イシマテは**イガヒ**及**ホトトギス**と同科別屬にして殻は長さ約二寸圓筒形をなし、茸毛を缺ぎ表面は栗色の表皮を被り、内面は蒼紫色を呈す、本邦中部に産し、岩石等を穿ちて其中に住居す。

(板屋貝亞目)

眞珠貝(珠母)類 (The Pearl Oysters)

此類の殻は兩片不等にして右片小さく、常に之を下にして海底に横はり、鉸鏤線は直くして長く、

ものは *A. loricata* Rvc. 瀬戸内海に産するものは *A. imaequinolitis* Brug. 等の如し。

ハイガヒの殻は石灰製造の原料となるを以て之を灰貝と稱へサルボウよりも更に小形にして、最大なるもの約二寸、放射肋の數更に少くして二十條内外に止まり、且つ隆くして結節狀を呈す、瀬戸内海、東海道及西南海に産し、軟泥深き淺海に埋棲し、其肉頗る美味なるを以て一に之をチンミ(珍珠)と呼ぶ、支那にては伏老と稱へ我國より多く之を輸入す、岡山縣兒島灣にては文久年間より盛に之を養殖せしと云ふ、兒島養貝合資會社の報告等によれば該社は苗貝を買込み、平田船の兩舷より熟練の蒔子をして之を海中に蒔き散らさしめ、翌年より春秋二回濃厚の部より採收して他區に移殖し、苗貝の稍や生長するを待つて更に之を潮流の速やかなる所に移し、三四年目を経て始めて收穫販賣することを得ると云ふ、例へば秋季に一升

四五六万個入の苗貝を播下し翌春に至れば一万二千個入となり、其秋には一千個入となり三年目の秋には二百個入となる之を輸出貝と稱し、専ら支那上海、寧波等に輸出し、四年目の秋に百二十個入となりたるを地方貝と稱し、岡山縣下及大阪、堺、名古屋等に販賣す、支那にては寧波等にて盛に之を養殖して盛宴に使用し、殊に年始祝宴の必需品たり、支那料理にては此鮮貝の殻面に熱湯を注ぎ肉の赤色となりしものを賞用す、之れ該國人が三年目位の殻薄き貝を撰む所以なりと。

(淡菜亞目)

イガヒ(淡菜、貽貝、贄貝)類 (The Mussels)

此類の殻は長形或は卵形をなし、前方に殻頂を有し、鉸鏢に齒なく、靱帯は長くして内部に位し、内面は眞珠質なり、表皮厚く、暗黒色を呈し、往々毛茸を具ふ、動物は開けたる外套膜と、長葉狀の四鰓とを有し、足は圓柱形にして貝絲を生じ埠

此類は暖海に産し殻質重厚にして、厚き表皮を被り、外靨帯は両殻頂間を覆ひ、鉸鏢には一列の櫛齒狀細齒を具へ、外套開き其縁に眼點あり、足は大きくして曲り、深き溝を有し、鰓は斜向し、水管を缺ぐ、學名の「アルカ」は英語の「アーク」すなはち箱或は箱船の意にて、太古大洪水の時、那諾が一族を戴せて難を逃れし方船に因みて、地中海、及西印度附近の産に那諾方船(Noah's Ark 學名 *Arca noae* Linné) と稱せらるゝ貝あり、又邦産にも鷺の羽及舟貝等と稱するものありて共に此類に屬す。

アカガヒ(魁蛤或は瓦屋子) 殻質重厚にして脹れたる心臟形をなし、四十條内外の放射肋を具へ、殻縁は鋸齒狀を呈し、鉸鏢には一列の櫛狀齒を具へ、兩端のもの大にして、中央に至るに従つて小となる、表面は淡褐色の地に暗褐色の鱗片狀表皮を被り、内面は白し、前後の筋痕は同大にして套痕に

は灣入なし、長さ三四寸、多く東海に産し、海底の泥中に埋棲し、六月より九月頃迄に産卵す、其紅色の足は長くして尖り、肉も鰓も紫赤色にして赤貝の名に負かず、甘煮又は酢の物等として食用に供せられ頗る美味なり、其成分左の如し

水分 八二・〇四、蛋白質 一五・七九、
脂肪 〇・四五、灰分 一・七二、

サルボウ(鰓蜆) はアカガヒに酷似し、往々其幼貝と誤認せられ、屢ばアカガヒと稱せらるゝことあり、然れども眞のアカガヒよりは小形にして長さ二寸に満たず、又放射肋の數少く、三十條内外に止まり、殻質厚くして脹み少く、アヂモと稱する海藻中に棲息するを以て亦**モガヒ**の名あり、中海、兒島灣等にては之を養殖せり、肉の味は遠く**アカガヒ**に及ばず、我國各海に産するものにして俗に**サルボウ**と稱するものに數種あり、假令へば相模産のものは *A. nipponensis* Pils. 日本海に産する

(瓣鰓綱—絲鰓目—波間柏亞目)

ナミマガシハ類 (The Jingle Shells)

此類は殻質薄く硝子様にして扁平なり、大抵下殻の殻頂附近に深き切れ込み即ち穴を有し、これより石灰化せる短大の貝絲を出して岩片或は他の貝殻等に永久に附着す、此類の動物は開きたる外套を有し、其縁に二重の縷を具へ、眼點を欠き、四枚の大なる鰓あり、足短く指狀をなして溝を有し、雌雄異体なり、此類は其貝絲の位置異常なるが爲めに他の器管の轉位を來せるもの多しと云ふ。

ナミマガシハ (波間柏) (飯島博士の動物學教科書に面貝とあるは多分此種なるべし) の

殻は多少牡蠣に類似し、其質薄く雲母狀をなし、鉸鏢に齒なく、左殻の表面は淡黄或は淡褐色を呈し、右殻片は極めて薄く一方に反曲して鉸鏢附近に孔狀の切れ込を残し、之より石灰化せる短大の貝絲を出して海中の岩屑、貝殻等に附着し其附着

面の凸凹に従つて不規則なる形をなすを以て種に分類頗る困難なり、我國到る所の淺海に産し、其殻は所在の砂濱上に散亂し往々平家蟹の之を負ふを見ることあり雌雄異体なり。

マドガヒ ("Chinese Window Shell") はナミマガシハと同科別屬にして、臺灣比律賓諸島等に産し半透明雲母白色の扁平なる團扇形をなし、鉸鏢は右殻片に人字形の長短二強齒を具へ、之に對して左殻片に長短二溝あり、右殻を下にして砂底に棲息すれども貝絲を欠げるを以て他物に附着するとなし、兩殻共に平坦なるが故に動物体は非常に側扁なる可く、若し畫洋紙よりも厚からんには必ず雙殻の壓迫を感ずるなるべし支那にありては古來之を以て寺院の窓障子等を張ると云ふ。

(舟貝亞目)

アカガヒ類 (The Ark Shells 又

"Chest Shells")

の池沼等に産するヒラマキミツマイマイは小形淡灰色にして一見上下を辯じ難し。

(掘足綱)

ツノガヒ(角貝類) (The Tooth Shells)

此類の殻は両端開ける曲管状をなし、凸面は腹にして凹面は背なり、自然の儘にて絲に貫くことを得べきを以て、北米西岸のインヂアン土人等は之を通貨に使用し亦之を裝飾にも用ゆと云ふ、体は左右相稱にして筋肉によりて殻の後端附近に附着し、外套膜は殻の裏面を被ひ、腹縁合して一管を作り、殻の前端に至りて開展し、其表面より水中の酸素を攝取して呼吸作用を營む、主として深海に住するも往々深さ二三尋の淺海にも棲息し、頭を下にして斜に砂中に埋没せるを以て眼の用なく、絲狀突起を出して砂中を探索し、微小なる二枚貝、有孔蟲、硅藻及小甲殼類等を餌食す、此類

は外套膜と足を有せるを以て軟体動物なること疑なく、眼を欠ぎ、心臟の不完全なるより考ふれば著しく退化したる者なるべく、以前は之を腹足類中に編入せしも、研究の結果全く別綱となすに至れり、其單殻を有し、齒舌を具ふる點は腹足類に類似せるも、判然たる頭部、觸角及眼を欠げると、諸器官の概して左右相稱なると、神經系の配布とは却て瓣鰓類に近似せるより考ふれば、此類は正に腹足類と瓣鰓類との中間に位せる者と謂ふ可し。

此類は只兩三屬あるのみなれども其種數は殆んど百五十に上り、本邦産の六縱肋を有せる小形の者をムカドツノガヒと稱し、八縱肋の者をヤカドツノガヒと稱すれども此の両者は多分同種なるべし、長さ四寸に達して圓筒形をなせる者をマルツノガヒと名づけ、之に似て小形なるを單にツノガヒと稱す。

キクノハナガヒ類 (The Siphon Shells)

内臓塊と殻とは圓錐形にして、觸角は萎縮し、頭部擴がり、雌雄の生殖孔は相連續す、海産にして、水を滿せる外套腔を具へ其内に擬鰓葉を有す、此類は學者によりて種々に主張せられ、或る學者は後鰓目の變形せるものなりと稱し、又或る學者は有肺目の海中生活に適する様に變化せるものなりと云ふ、各其の云ふところに一理あり。

キクノハナガヒは梁舌亞目中のウノアシに酷似せる殻を有し、其放射脈の一ヶは稍や大きく、動物は之より水管を出せり、此動物は肺腔と鰓とを兼有せるも、其鰓は萎縮せるを以て二十四時間中の平均二十二時間は水外にありと云ふ、これ明かに海産の貝類が陸産とならんとしつゝあるを證するものに非ずや。

モノアラガヒ類 (The Pond Snails)

此類は殻質脆薄にして概して角色を呈し、体層

非常に大きく、殻軸に一斜襞を具へ、殻口も亦非常に大きく、外唇鋭し、吻廣く、齒舌は無數の方形齒を具へ、觸角扁平にして、眼は其内基部に位置す、足扁平にして呼吸孔は右側に開き、雌雄同体なり、世界到る所の淡水に産し、殊に北温帯に多く、藻類或は小動物を食ひ、往々倒まに水面を匍匐す、又魚類、蛙類、鳥類等の食となり、冬季は泥中に埋匿す、西洋にて牧羊に大損害を與ふる肝蛭の中間宿主となる者も亦た此類の一種なり。

本邦内地にはモノアラガヒ及ヒメモノアラガヒの二種を産するに過ぎず。

ヒラマキガヒ類 (The Orb Snails 又 "Trumpet Snails")

此類の殻は扁平、両凹にして殻口は小さく且つ圓く、口縁簡單にして上縁延長す、足は楕圓形をなして短く、頭部も亦短く、觸角長し、世界各地の溜水或は緩流に住し、其性遲鈍なり、本邦各地

繞らし口縁は微紅色を呈す、時としては全く帯を欠けることあり。

ヒトスチマイマイは九州及中國に産し、淡黄色にして大抵栗色の一乃至三狹帯を匝らす。

ヒタリマキマイマイは螺塔稍や高く、左巻なるを以て一見識別することを得べし、關東及東北地方に最も普通なり。

ウスカハマイマイは薄質半透明、球形をなし、肉に斑點を有し菜園に群生して大害をなす。

オホケマイマイは基石形にして、臍孔大きく、周縁に龍骨を具へ、新鮮なる標本にありては之に茸毛を密生せり。

カタマイマイは前記の諸種と同科異屬にして小笠原島に産し、殼質厚く、臍孔なく、肉色の地に廣狹濃淡數條の栗色帯を匝らす、我國内地の諸都會に於ては往々此殼内に寄居蟲の棲息せるものを兒女の玩具として販賣せるを見る。

キセルガヒ類 (The Door Shells)

殼は狹長左巻煙管形にして螺層の數多く、殼口は小さくして耳形を呈し、其内に種々の襞を有し、且つ一種の彈性物にて殼軸上に附着せる一閉瓣を具へ、以て小甲蟲等の侵害を防ぐ、陸産にして、専ら歐亞帶の南東部に住し、邦産のみにても二百餘種に上り、其分類は多く殼口内の諸襞と閉瓣とによるを以て頗る困難なり。

マルテンキセルはキセルガヒ類中の最大種にして東海道及四國等に産す。

ナミキセルは前種よりも小形にして螺層多く、本州、四國及九州に最も普通なり。

ナミコキセルは長さ五六分、前種よりも更に小形にして、腐樹朽葉の間に棲息し、又時として人家の茅屋土塀の上等にも發見せられ、本州四國九州及支那等に最も普通なり。

は中齒三尖、側齒二或は三尖、縁齒も二或は三尖にして短し、雌雄同体なれども他の個体と交接して産卵す、空氣を呼吸して陸上に棲息し、全世界に分布す、形態上の變化に富むを以て分類頗る困難にして、此頃迄は殻のみによりて鑑識せしも今や分類の基を肉體解剖殊に生殖器と齒とに置くに至れり、ピルスブリー氏の說に従へば此科は五十屬に分れ、美麗なる者は熱帶産に多く、就中最も鮮麗なる者は樹上に棲息し地上に住する者は大抵美麗ならずと云ふ、ニュー、ホルランドには直徑四吋の蝸牛を産し、邦産中の最大なる者は直徑二寸のクロイハマイマイなるべし、西洋にては古來蝸牛を食用に供し、殊に地中海沿岸の北亞弗利加、小細亞及南歐羅巴の人民最も之を嗜好し、古昔羅馬人は蝸牛園を設けて之を飼養しケーザルが今の英國の地を征服するや其食用蝸牛を伴ひ、西班牙、葡萄牙、佛蘭西の諸國人が西半球に移住するや亦

其の食用蝸牛を伴ひ從て蝸牛食用の風をも傳播したり、我國にても燒きて之を食し或は藥として服用する所なきに非ざるも、料理に用ゆるところあるを聞かず。

本邦に産するカタツムリ類は其形狀は總ての人の悉知する所なり、此ものは濕地に住し、雨後に出で、夜間に活動し、二對の觸角を有し、嗅覺鋭く、長角の尖端に近眼的の眼を具へ、之を切斷するも其部を再生す、厝なく、乾燥に遇ひ或は冬眠するときは白膜を生じて殻口を塞ぐ、又筋力強く、重さ一匁五分の蝸牛はよく卅五匁の碁石を引く、我版圖内に約三百の種及亞種を産す。

ミスチマイマイは關東に普通にして、直徑一寸余、稍や扁平にして、概ね帶黃白色の地に三條の栗色帶を繞らす、變種多し。

クチベニマイマイは中山道より關西地方に普通にして帶黃白色にし鮮麗なる幅廣き栗色の數帶を

小形にして殻を有し、或は有せず、殻は内在或は外在し、形状は喇叭狀、圓筒狀、球狀、圓錐狀、針狀等種々あり、足は兩岐して翼狀游泳盤となり腹部を上にして蝴蝶の舞ふが如くに游泳し、全体彩色の美亦之に譲らざるを以て海蝶の稱あり、殻肉共に透明にして、組織内臓を透視すべく、往々血液の循環をも認むべきことあり、頭部は微小なるか或は之を欠ぎ、觸角上に聽官及嗅官を具ふれども眼を有することなし、吻は大にして鈎刺を具ふる齒舌を有し、鰓は内在或は外在し、幼蟲は皆殻を具へ縁膜にて游泳す、此類は群棲往々里餘に亘りて海面を變色し、鯨及海鳥類の食料となり、其の死殻は硅藻及有孔蟲類の遺骸と共に海底に沈積して軟泥をなし、石灰岩生成の材料を供給す。

此類は皆て翼足類の名の下に獨立の一綱とせられ或は腹足類中の一亞目とせられしことありしが最近研究の結果は單に太平洋生活に適應するため特

異なる形状を呈せる被鰓亞目中のものたることを證明せられたり。

カメガヒ科は鰓大きく、鰓房は腹面に位し、殻は薄き角質にして圓錐形をなし、螺旋せず、或は圓く、或は角を有し、胎部判然し、往々分離したる二枚より成る、



第三圖

カメガヒ、クリイロカメガヒ、マルカメガヒ、ナガラカメガヒ、ヒラカメガヒ、ウキツツガヒ等之に屬す。

(有肺 目一有柄眼亞目)

カタツムリ類 (The Land Snails)

ヘリツクス(カタツムリ)科は現生貝類中の最も種類多き一科にして、殻形多様なりと雖も殻口の外唇は必ず厚くなりて反曲し、往々口内に齒狀の障礙物を具へ、動物は足溝を欠ぎ、全く殻内に退縮することを得、顎は強くして橙色を呈し、齒舌

寸許の小芋形にして主として日本南部に産す。

アシロイモは長さ凡そ一寸五分の小倒圓錐形にして、白地に褐色の細網を書き、雪白なる群巒の間に雲の如き黄褐斑ありて斷續せる二帯をなす、亦日本南部の産なり。

(後 鰓 目—被鰓亞目)

ナツメガヒ(飛貝)類(The Bubble Shells)

此類の殻は外在し略ぼ棗子形を呈し、表面平滑にして斑紋を有するを特色とす、螺塔は陥りて深坑をなし、唇に出入なく、肉体は大形、多汁なるも全く殻内に退縮することを得べく、頭盤は大形にして前方は截切状を呈し、後方は二葉に分れ、眼は著明にして略ぼ其中央に位し、足は長くして、後方狹窄し、胃(砂囊狀)中に三ヶの亞鈴形角質板を有せり、鰓は体の背上の後部右方にありて貝殻に保護せらるゝを以て後鰓目中の被鰓亞目に屬す。

此類は此頃まで食肉類とせられ小形の二枚貝類

及螺類を呑み胃の強壁間に挽碎するが如くに記載せられしがビルスブロー氏は其一種(*Bulla nebulosa* (G.E.))の胃中を検して植物纖維の一塊を得しも少

しも動物質物を發見せざりしと云ふ、氏は此植物質を海藻なるべしと主張し、棗貝科を全然食草類なりとして、これまで同科とせられし**アダウガヒ**類(*Haninea*)と齒式を異にするを以て全く別科なりとせり。

ナツメガヒの殻は密に内旋し、臍孔狀螺塔を有し、殻質稍や厚く葡萄酒色の地に三帯の黒斑と數條の黒色縦斑とを有し、一面に小白点を散布せり、砂泥ある海底或は半鹹水に往し、退潮の際は泥中或は海藻下に隠れ多量の粘液を分泌し、燥を防せぐと云ふ。

翼 足 類 (The Sea Butterflies)

此類は太平洋中に群棲し、爽明薄暮海面に浮游し、顯微鏡的の軟体動物と甲殼類とを餌食す、概して

す、小形にして彩色劣り、斑紋も亦少く、概して彫刻を有す、本邦に産するもの四十種に及ぶ。

リウキウタケは長さ四五寸、琉球等の暖海に産し長筈形をなし、螺層二十餘階に及び淡肉色の地に栗黒色の方形斑紋を二列に繞らし、体層には三列あり、**リウキウタケ**と其形を等ふし其斑紋の色濃肉色にして白地なるは**ベニタケ**にして、稍や短形にして縫合に結節を有し淡肉色の地に褐色の細点を二行(体層には三行)に繞らせるは**キバタケ**なり、また最も大形にして真筈形を呈し、栗色の亂れたる斑紋を有せるものを**オホリウキウタケ**と稱す。

イモガヒ類 (一名難心螺、ニナシガヒ)

(The Cone Shells)

此類の殻は概して倒圓錐形をなし、磁質重厚にして螺塔極めて低く、体層は下方に窄みて底部に切込を具へ、殻口狹長にして、層薄く縫合に切込

あり、表面は大抵平滑にして表皮を被り、彩色斑紋頗る多様なり、鬚は鈎状を呈す、此料は一屬四百餘種を含み邦産五十餘種に及ぶ、此類中には高價なる種を有し、フィリッピン産の「海の榮」(*Conus stornis-maris*)の如きは曾て四十三磅(四百三十圓)に糶賣せられ、又一ヶ千圓の價を附せられしことありしと云ふ、南洋諸島の土人中には白色大形の芋貝を横斷して婦人用の腕輪を作り白色小形の芋貝を糸に貫きて頸飾を製する者あり、此類は鋭齒を具へて肉食し、往々二枚貝の殻を穿ちて其生液を吸收し、又嚙付きて毒を注射する者あり、**タガヤサンミナシ**、**アンボイナ**の如きは是なり、此類の卵囊は扁平葉狀にして他の死殻等に附着す、此類は螺塔の隔壁を吸收し再び之を分泌して殻の外部を厚め以て成長したる動物の保護に適せしむ。

マダライモは白地に黒色の長方形斑或は連短線の數列を繞らし、殻口は往々紫色を帶ぶ、長さ一

を呈し、縫合線の螺溝中に納めらる、觸角の基部に眼を有し、或は全く之を欠ぐ、齒舌の中齒は三尖にして底部廣く、側齒は簡單にして鈎を有す、熱帯の産にして現生者は數屬あるのみ。

マクラガヒは長さ凡一寸三分、日本中部に産し略ぼ圓柱形を呈し、螺塔低く、茶色の地に密に縦折線を畫き、口内は美麗なる莖色を呈す、**ジユドウマクラ**、**サツマビナ**等は同屬に屬し、**ホタルガヒ**、**リウグウボタル**等は各同科別屬に屬す。

クダマキガヒ類 (The Notch-side Shells)

此類は其名の示す如く紡錘形を呈し、外唇薄く、概して角質の厝を具へ、殼は稍や**ナガニシ**類等に類似せるも縫合附近の外唇上に深き切込あるにより直ちに識別することを得べし、動物は頭部廣く、左右の觸角は廣く相隔たり、其基部に眼を有し、水管長く、外套縁も殼の切込に應じて切れ込み、齒は長形中空にして毒腺と連絡し、解剖上**イモガ**

ヒ類に酷似す、此類は微細なる種類に富み本邦にも數十種を産す。

クダマキガヒは長さ一寸五分ばかり、本邦中部に産し、螺塔及肩角高く、黃褐色なり。

タケノコガヒ類 (The Auger Shells)

此類は殼質重厚にして窠形を呈し、螺塔高く、螺頂尖り、螺層極めて多く、殼口小さく、前方に切込を有し、内唇に襞なく、厝は角質にして其一端に核を具ふ、動物は頭部大きく觸角の先端に眼を有し、足は前方圓く、後方に延び、吻は大なり、**イモガヒ**類及**クダマキガヒ**類と共に**矢舌族**に屬するを以て齒は大きく、食道に大なる一毒腺を具へる食肉性なり。

現生者二屬(**タケノコガヒ**屬及**タケノコモドキ**屬)百八十種、化石二十五種あり、主として熱帯に産し熱帯産は種類頗る多く殼面滑澤にして斑紋彩色共に美麗なれども温帯産は種類少なきのみなら

フトコロガヒ類 (The Dove Shells)

殻質重厚にして小さく、楕圓形或は紡錘形をなし、螺塔秀で、水管溝短く、内唇灣曲し、其下部に結節を有し、外唇厚く、其内方に齒を具ふ、殻面に表皮を被り、厝は角質なり、頭部長く、觸角の基部に眼を有し、足は前方に延長し、外套膜は殻を包むことなし、齒舌は退化し、頭部の後方であり、フトコロガヒ科は屬數少きも種數多く、フトコロガヒ屬のみにも已に命名せられたるもの八百種に上れるも只殻のみの研究に基けるもの多きを以て、其肉体を研究せば必ず多少の變更を免れざるべし、又此類の動物は多く平砂、礫濱、岩岸上を匍匐せるも、其生活状態の明かに知られたるもの甚だ少く、多くの分類家は外唇の厚くして内唇に齒ある小貝をば此屬中に投ずるを常とす、此類は分布頗る廣く、兩半球の暖海及寒海に産す。

マツムシは長五六分、日本中部及南部に産し、紡

錘形をなし肩角なく、黃褐色の地に縫合下白帯を繞らし、該帯中に栗色点を列らね内は白色なり、又白地に折線狀の栗色を彩れるもの、又栗色の網狀紋を彩れるもの等の變種あり。

フトコロガヒは長五分ばかり、日本中部及南部に産し、肩角高く、螺肋は橄欖色と白色とを交互し、又所々に褐色を彩り、肩部白く、大形の栗色斑を交へ、小紋様の外觀を呈す。

マクラガヒ類 (The Olive Shells)

殻は括枕形にして磁質を呈し、表面滑澤にして表皮を欠ぎ彩色斑紋共に麗はしく、内外唇、縫合及螺塔は多少珞瑯質を被る、殻口狹長にして前方に斜の切込を有し、内唇には襞及綳帶を具ふ、厝は細小なるか或は全く欠乏し、動物は足大きく、前蹠は半月形を呈し其上面に縱溝を有し、中蹠は側方に反曲して多少殻を被ひ、前方にありては大形の管狀水管を作り、後方にありては延長して鞭狀

テツボラ類 (The Purple Shells)

足は短くして前方鈍し、殻は厚くして螺旋短く、
 体層大きくして水管溝短く、殻口廣く殻軸扁く、磨
 は角質なり、原とホ子ガヒ類と共にホ子ガヒ科と
 せられしが最近之を分離せらるゝに至れり、昔時
 地中海沿岸の諸國にては此類の動物より紫色の染
 料を取り、以て帝王の衣服を染むるに用ひられ、
 オーストリア帝の時代にありては此法にて染めたる
 一ポンドの羊毛は英貨凡そ卅六ポンドに賣買せ
 られ、往々同重量の黄金と交換せられしとぞ。
 イボニシは本邦中部に産し、長さ一寸餘、殻面
 に結節多く、外唇に齒なし、其外套膜には一種の
 辛味を有す。

レイシは前種よりも大きく、結節も亦強大にし
 て、殻口は橙黄色なり。

テツレイシ(又イハニシ)は琉球、小笠原等に産し、
 長さ一寸内外、殻質重厚にして強き結節を具へ、表

面は黒色を呈し、帯白色の縦斑を有す。

アカニシは前三種と同科別屬にして、概して螺
 塔低く、多少の結節を具へ、淡褐色の地に暗褐色
 の縦紋を有し、殻口は大きくして美麗なる肉紅色
 を呈す、淺海産の肉食類にして、其肉美味なり、
 卵嚢は長刀状を呈し、長刀酸漿と稱す。

コロモガヒ類 (The Cross-barred Shells)

殻面に縦横の脈を刻し、殻口の前部に水管溝を
 有し、内唇に強鬚を具へ、磨を有せず、動物は吻短
 く、大抵齒舌を缺ぎ、足は前方廣く、觸角の基部に
 眼を有す、熱帶温帶の濱海に住し、食草性にして
 現生者は二屬、七八十種あり、佛人フイツセル氏は
 齒式によりて此類を矢舌類中に編入せり。

コロモガヒは縦肋及螺旋著しく、肩角鋭く、短刺
 状の突起を具へ、淡褐色にして、大抵肩部の所々
 に栗色の斑紋を有し、体層の中央に曖昧なる一白
 帯を繞らす。

暖海に産し、海濱の淺所に住す、習性活潑にして食肉性なり。

此屬の記載せられしもの已に五百種に及べるもトライオン氏は其四分の三を異名同物なりとし約百種を残せり、此類は波濤に打寄せられし海濱の汚物を食するを以て掃除の效を有し、水族館等の不潔なる水槽を清めんと欲せば此類の一掬を入るゝに若かず、其分岐せる頭葉を擴げ、分岐せる尾を泥中に引きながら匍匐せる状態を観察するは頗る興味あることにして、足跡の端に泥土の小塊をなして其下に隠匿するを以て隠匿の方便却て看板となり、其足跡を追従して泥球に至り其下を探索すれば必ず此貝を得べしと云ふ、又之を水槽中に飼養して其習性を觀察すれば往々モノアラガヒと同じく足跡を水面に浮べ倒懸することありと云ふ、此類は生命強靱にして涸渴せし水槽或は標本箱中にありてよく數ヶ月間生存し、之を鹹水に投ずる

ときは忽ち活動を始むと云ふ。

ムシロガヒは長六七分、粗き縦横の肋を刻し莖目狀の外觀を呈す、帯白色にして背に褐色の二帶あり。

ホネガヒ類 (The Rock Shells)

此類の殻は高度の發達を遂げ、有刺縦脈を具へ、動物は外套膜閉ぢ、其縁は皺襞をなして之に適合する殻面の凸凹を作り出し、眼は往々構造複雑にして、腹足類中の高位を占むる者と云ふ可し、雌雄異体にして、熱帶亞熱帶に産し、肉食す。

ホネガヒ ("Venus's Comb")は本邦南部に産し、帶黃白色にして、長さ四五寸、水管溝長くして二三寸に達し、縦脈より三方に一二寸の長刺を出し、其外觀魚骨に似たり。

アケキガヒ ("Three-spined Murex")は前種と同屬にして、該種よりも大形重厚、刺數少く、表面に褐色線を繞らす。

則なる橙赤色の方斑を密匝し、恰も橙赤色の地に白色の縦横線を畫けるが如し、動物は乳脂色にして不透明の白點を有す。

エツチウバイ類 (The Whelks)

足は大きくして廣く、眼は觸角の基部に位し、殻は卵圓形にして殻口も亦卵圓形を呈し、厝は角質なり。

バイ(海 麩) (Ivory Shell) の殻は多少の肩角を具へ、臍孔大きく、強筋に限られ、往々内層の滑層に被はる、新鮮なる標品は暗褐色の表皮を有すれども、琢磨せる室内の標本は大抵象牙白色の殼面を露はせり、動物は觸角に赤褐色の環と淡黄色の斑點とを具へ、水管に帶黄白色の點と不規則なる赤褐色の線とを有し、重厚肥大なる足は不規則なる赤褐色の横線と蒼黄色の細點とを飾り、蹠縁は蒼黄色を彩り、足の尾端に著明なる圓柱狀の一尾絲あり、東半球熱帶の特産にして、僅かに十

二種を含み、本邦内地には只だバイの一種を産し、臺灣には別にタイワンバイの一種あり、甲は殼面に褐紫色の斑點を飾り、乙にありては該斑紋相連りて縦折線をなす、肉は食用となり、殻は獨樂、笛等の玩具を作る。

ミクリガヒは長一二寸、水管溝反曲し、彫刻多様にして、彩色一定せざれども概して柑色の地に栗色及白色の帶と斑點とを有せり、ミクリガヒ屬は日本を中心として南方濠洲に分布し、其肉は食用となる。

ムシロガヒ類 (The Basket Shells)

殻は小形にして、螺塔高く、殻口の底部に一ヶの切込即ち反曲せる短水管溝を有し、内層に滑層を具ふ、厝は角質にして頂核を有す、動物は分叉せる尾を有し、足は長くして廣く、水管長く、觸角は細長にして眼を具へ、齒舌よく發達し、齒は弓形にして鋸齒狀を呈す、分布廣く、主として溫帶の

るを以て我國の或地方にありては全く之を漁獲すること止め以て卵囊の増收を圖ると云ふ。

フデガヒ類 (The Mitre Shells)

殻は紡錘形にして螺塔高く、螺頂尖り、内唇に鬚を有し、該鬚は底部に最も近きもの最小にして後方に至るに従ひ順次大となり最後の者最大なり (ヒタチオビ類にありては最も前方に位せる鬚最大なり)、殻口狭く其長さは往々全殻長の半に及び、表皮薄く、或は之を欠く、動物は頭部狭長にして眼を有せる觸角と圓柱形の伸長し得べき吻とを具へ、外唇は閉ぢ、足小さく、齒舌は種々にして、側齒は數多く、廣くして櫛狀を呈し、水管長く、前方に附屬部を有す。

フデガヒ類はヒタチオビ類と、コゴメガヒ類

(*Marginalia*) の間に位せる一大科にして、主と

して熱帯に産し、種數二百に及び、濠洲及フィリッピン諸島の産最も美にして、寒海に産するもの

は概して小形にして美麗ならず、性群居を好み、夜間に活動し、日光を嫌ひ、晝間は岩礁或は珊瑚礁の下等に隠れ、或は砂中に埋居せるものあり、殻質重厚なる種は舉動概して不活潑にして、如何なる種も満潮の際最も活潑なり、肋を有せる種は敵の目を逃れんが爲めに砂泥に被れて海岸を匍ひ廻り、或種は刺激に應じて紫液を放出すと云ふ。

テフセンフデは廣く熱帯に分布し、殻質重厚にして長さ四五寸、螺塔高く、殻面平滑にして乳白色を呈し、數列の規則正しき朱色方點を繞らし、縫合下の斑紋最も大なり、貝殻中の最も美麗なるもの一なり、外國にありては錫蘭、比律賓等に多く、我國にありては四國、九州の南海及琉球、臺灣等に産す。

ニシキノキバは殻長二三寸、螺塔は層々段階をなして肩角に齒狀突起を列し、花冠狀の外觀を呈し、其下に針孔狀の數點線を繞らし、白地に不規

球上のヤツシロガヒ屬は僅に十五六種に過ぎざれども本邦産九種あり、往々之をラムプ或は花瓶に使用すと云ふ。

ウヅラガヒ ("Partridge Tun") は此屬中にて螺塔最も高く褐色の地に白色新月形紋を有し、鶉の斑紋に酷似し、長四五寸に及ぶ、日本南部に産す。
ヤツシロガヒ は長四五寸、日本中部に産し、淡褐色にして球形をなし、強螺肋上に濃褐色の新月紋をまばらに散布し、殻口頗る大なり貝細工等に使用す。

(狭舌亞目)

オニコフシ類

此の類の殻は重厚にして紡錘形をなし、水管溝は稍や長くして少しく反曲し、厝は角質釣狀にして頂核を有す。

コオニコフシ (小鬼等) 薩隅諸島より琉球諸島に産し、殻質重厚、短紡錘形をなし、長さ一寸五分、螺

塔低く略ぼ倒圓錐形にして、螺肋上に大なる結節を具へ、内唇の中央に數襞を刻み、帶黄白色と栗黑色とを混彩して曖昧なる帶をなし、殻口内は淡肉色にして外唇縁に黒斑あり。

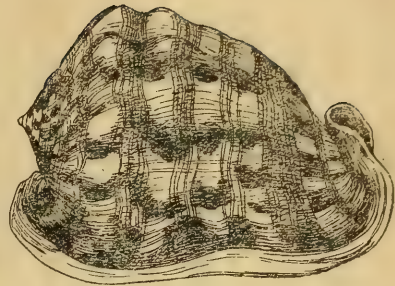
テングニシ は前種と同科別屬にして、長さ六七寸、本州の沿岸各地に産し、殻質前種よりも薄く、螺層の微肩角上に結節を具へ、水管溝は開きて廣く、黄褐色の有毛表皮を被り、内外共に淡肉色を呈す、卵囊は軍配酸漿ほうづきと稱して女兒の玩弄物となる、肉は食用となり味美なり。

ナガニシ類 (The Spindle Shells)

殻は紡錘形をなし、外唇薄く、縦脹脈を有せず。

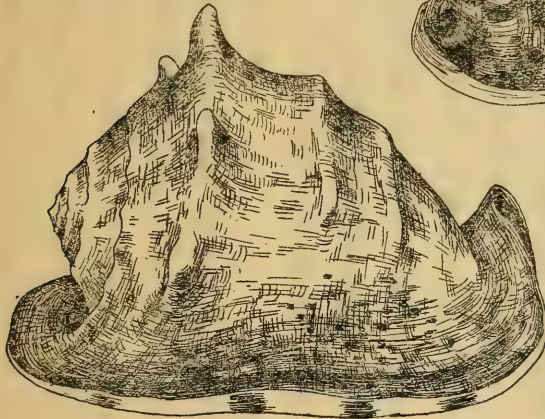
ナガニシ は長き紡錘形にして、長さ四五寸、螺層脹れ、上部諸層にありては縦肋著しく肩部に隆起を作り又大小の螺脈を繞らし、殻は白質にして黄色の表皮を被り、肉は食用に供せらるゝも、其卵囊は女子の玩弄に供せられ、稍や高價に販賣せらる

紅瑪瑙色を呈
せるを以て、
赤地に白像を
見はすとを得
べく、**タウカ
ムリ**(Horned
Helmet)にあ
りては、橙色



ウボンマ 圖一第
(圖原) (一の分三)

地に白の畫を刻す
ることを得べし、
西洋にありては西
印度産なる一種
(Black 又は Car-



(圖原)(一の分四)リムカウタ 圖二第

neo Helmet Shell (= *Cassis carneo* Stimp.) を賞用
して黒地に白畫を刻むを常とす、猶ほ伊太利式彫
刻に就ては**タカラガヒ**類の條下に見るべし。

ウラシマは体層大きくして圓く、稀に縦脈を具
へ、淡褐色の地に五帯の方形栗色紋を繞らす、其
彫刻の稍や粗にして、螺層の脹らみ稍や少きもの
を**ウネウラシマ**と稱す、後者には大抵螺塔上に一
二ヶの縦脈を残すを常とす。

ウツラガヒ類 (The Tun Shells 時々し

ては“Wine Jars”と呼ぶ)

殻質薄く、卵形或は亞球形をなし、体層大きく、
概して強き螺肋を有し、殻口大きく、底部に水管
溝を有す、幼貝には厖を有することあり、肉体大
きく、外套擴がり、頭部も亦大きく、眼は觸角の
側面に位し、吻は著しく長大にして伸縮自在なり、
足は葉狀に擴がり、前縁は截切狀をなし、水平溝
を有す、主として熱帶の海に産し種類少し、全地

其蓋に代用すと云ふ。

ハウシウボラ(房州法螺) ("Knobbed Triton")は

前種よりも小形にして螺層に一二列の大なる圓き結節を具へ、螺脈曖昧にして、白地に判然せざる赤褐色の斑紋あり、肉は食用に供せられ、殻は**ホラガヒ**の代用をなす。

シホボラ("Quilted Triton")は長一寸七八分殻面に縦横肋を刻し、其交る所は圓き結節をなし、体層の背上肩部の結節殊に大にして駝背の觀を呈す、口内は暗赤色を彩り、表面は灰色或は暗褐色の地に往々雲斑或は帯を有す、水管溝は長くして反曲し、両唇に厚き白色滑層を被り、外唇の齒白し、形状、彩色共に變化多し、土佐、大隅大島、琉球等に産す。

ミヤコボラは腹背の方向に稍や扁平なる短紡錘形にして、各層兩側の縦脹脈は上下相連續し、曖昧不規則の縦脹脈と大小の螺肋とを刻し兩者相交又

して各層の肩部及体層の中央に刺狀突起を起し、帶白色の地に紫栗色の雲を有し、口内に透りて鮮紫色を呈す、主として本州、四國、九州等の沿海に産す。

タウカムリ類(The Helmet Shells 又は

Cameo Shells)

殻質重厚、三角形或は球狀を呈し、螺塔低く、螺層は時に縦脹脈を有し、殻口は長くして反曲せる水管溝に終り、内唇は厚くして擴張し、外唇も厚くして内方に齒を具へ、唇は角質にして渦脈を有し扇狀を呈す、頭部大きく、觸角の基部に眼を具へ、吻は伸張することを得べく、足及外套共に大形なり、此類は暖海の砂濱に住み、食肉性にして多く二枚貝類を餌食し、強力なり、**タウカムリ科**は**タウカムリ**屬の他に四屬を含む、此類の大形種は伊太利式彫刻の原料として賞用せられ、**マンボウ**(Red Helmet 又 Bull's Mouth)は外層白く、内層

ウミウサギ ("Great Egg Shell") は前記の諸種

と同科別屬にして長三寸許、内層に齒なく表面は磁白色を呈し裏面は褐色なり、外觀恰も鵝卵の如く、動物は黒色にして、其反曲せる外套膜上には強結節を具ふ、南洋諸島の土人は祭日の裝飾として之を肘、手頸、踝及帶に懸け、又獨木舟、家屋、堂塔を飾るに用ひ、ソロモン諸島の土人は之を自己の額上に飾ると云ふ。

ツグチガヒは豆大にして**ヒガヒ**よりも前後の水溝短くイボヤギ等に着生して保護色を呈し、イボヤギ等の彩色に従つて灰色淡紅色乃至鮮紅色を見はし光澤強し。

ヒガヒは長二寸乃至三寸に達し、前後の水溝溝部著しく延長し、全体をして梭狀を呈せしむ、色彩は淡肉色なり。

ホラガヒ類 (The Tritons)

每螺層は決して二ヶ以上の縦脹脈を有すること

なきを以て容易に三ヶ以上の縦脹脈を有する**ホネガヒ**類と區別することを得べし。(Triton)の名は爬虫類のイモリと同名なる爲め改正の必要起りて歐米學者間に色々研究せられし結果或る時は *Aquibas* 及び *Septa* 又或時は *Lotonium* 等の屬名用ひられしが最近の學說漸く一致し *Cynatum* 及び *Charonia* 等ふ屬名を用ふるに至れり。

ホラガヒ(梭尾螺)("Triton's Trumpet")は殼質重厚にして螺塔高く、每螺層に一ヶ或は二ヶの縦脹脈を具へて生長の休止を示し、長一尺六寸に達し、廣き螺助上に紅褐白色等種々の新月形紋を飾り、板目狀の美觀を呈す、昔時は其殼頂に孔を穿ちて陣貝となし、或は之を吹て時を報し、或は山伏の携帯する所なりき。動物は外套閉ぢ、足小さく、水管短く、齒舌は七列の齒を具へ、眼は觸角上にあり、主として熱帯附近に産し、肉は食用に供せらる、琉球地方にては之を吊して湯沸しとなし、その靡を

用ひしが、今はイタリア式彫刻を施してカメオとなし、或は切りて杯等を作る、イタリア式彫刻とは貝殻組織の諸層が色を異にせるを利用し之に種々の彫刻を施せるものにして伊太利亞にては其職工養成の爲めに彫刻學校を設け、東京にても近時我水産講習所に於て此法を傳習し、漸次所々に傳播するに至れり。

ハチチヤウダカラ(又コヤスガヒ)長さ三寸内外、背は山形にして栗色の地に淡色の圓点を密布し、裾黒し、古來分娩の際産婦に此の貝を握らしむれば安産疑なしと信せられしにより此の名あり。

メンガタダカラ(又貨幣貝、一名キロタカラ、Money Cowry)光澤ある黄色の地に曖昧なる綠色帯を有す、背に柑色線の環狀紋を有するは**ハナヒラダカラ**と稱し別種なり、共にイタリア式彫刻を施して裝飾品を作るを得。

貝貨は隨所其價を異にしアフリカ洲西岸に於け

る貨幣貝の價格は左の如く記載せらる。

- 貨幣貝四十個……一緡(String)
- 二緡半(貝百個)……英貨一片
- 五十緡(貝二千個)……一匹(Head)
- 十匹(貝二萬個)……一囊(Bag)
- 一匹、十
- 二緡半(貝二千五百個)……邦貨一圓

同洲スーダン地方にありては貝貨のみを使用するを以て一弗の價格の物品を購求すれば貝貨二千個を仕拂はざる可らず、其重さ五六英斤(我六七百匁)に及び不便云ふ可らず、又同洲の或地方にありては美婦の價貝貨六萬乃至十萬個(英貨四磅乃至八磅、即ち我四十圓乃至八十圓)、稍や年長けたる普通の妻女を購ふには貝二萬個(二十五志セルリシク即ち十二圓)にて足ると云ふ。

ハナマルユキは長一寸ばかり、本邦中部以南に産し、黒色の背面は山形をなし、山巔に雪片を散らし、兩端及兩唇は白色なり。

其撲滅に苦心せるものゝ如し。

トミガヒは長徑一寸二三分、饅頭形をなし、臍孔は閉塞せられ、白色にして光澤強く、本邦南部の産なり。

ツメタガヒは殻面淡肉色或は帶黃褐色を呈し、其肉は味美ならず。

タカラガヒ類 (The Cowries)

此類の殻は卵形、楕圓形をなし、堅固にして概して彫刻なく、光澤強く、彩色斑紋極めて美なり、幼貝にありては**トンボガヒ**形を呈し、明かに小さき螺塔を認め、殻口頗る廣さも成熟するに従ひ、螺塔は珉瑯質内に埋没し、体層は全体を包み、殻口狭長となりて殆んど殻の中央を縦貫し、両端に短溝を作り、両唇に齒を具へ、厝を欠ぐ、動物は殻に比して大きく、外套膜は両葉に分れ反曲して殻を覆ひ、其表面は疣狀を呈し、各種の彩色を有し、足大きく、簡單にして楕圓形をなし、其縁邊

に襞を具へ、大抵彩色あり、水管は廣くして短く、往々總を飾り、頭は圓柱形にして其先端鈍く、長き觸角上に眼を有し、齒舌は長くしてよく發達し、顎は角質なり。

此類は暖海に産し、性質怯懦、運動遲鈍にして、珊瑚蟲を餌食す、其殻美なるを以て古來玩具家に貴重せられ、古代の人類は多く之を錢貨として使用し、支那にありても古代此風ありしを以て、賣買、貴賤、財貨、賄賂、量貨等の如く金錢に關係ある文字は大抵貝に従ふを見る、而して「貝」てふ文字もとは此寶貝類に限りて使用せられしものなりと云ふ、印度、亞弗利加、南洋諸島等にありては今猶ほ裝飾として使用せられ、野蠻人中には錢貨として使用する者ありと云ふ、此類は種類頗る多く現生種二百種、化石百種に近し。

ホシダカラ(又**タカラガヒ** ("Tiger Cowry"))長四寸内外、白色に褐雲と栗黒点を有し、昔は紙磨に

除貝の名稱を得るに至れり、之に似たる者にクモガヒあり。

スズメガヒ類 (The Horse-Hoof Shells)

殻質厚く、笠形をなして螺旋せず、殻頂は後方に鈎曲し、殻面粗く、内面の筋痕は馬蹄形を呈し、動物は体部圓く、足部薄く、頭部も亦圓く、頸部細く、眼は觸角上に位し、厩の代りに殻質の底部を有することあり。

キクスズメは殻徑凡そ四五分、本邦中部以南に産し、往々アハビ、サザエ、ヤクワウガヒ等の殻面に附着し、殻は傾きたる小笠形にして其表面に放射脈を刻し、口縁は多少齒狀を呈す、スズメガヒはキクスズメに酷似せるも表面に粗毛を被り、放射脈を有せざるを以て口縁は齒狀を呈せず。

ツメタガヒ類 (The Moon Shells)

此類の殻は球狀重厚にして螺層少く、螺塔低く、体層は殆んど全部を占め、殻口は半圓形を呈して

完全なり、厩は角質(タマガヒ屬にては石灰質)、にして僅少の螺旋を有す、温帯、暖帯の淺海に産し砂中に住し、動物は外套膜廣く、其大なる足は殻徑の三倍にも延長し、幅は長さの半に達し、其前部は髻をなし、後方に反折して殻を包み、盲目なれども極めて活潑に匍匐し、モグラの如くに海底の砂を穿ちて餌を求め、好んで二枚貝類を食ひ、口吻の下部に位する一腺より酸液を分泌して二枚貝類の殻頂附近に小圓孔を穿ち其吻を挿入して養分を吸収す、海濱に落ちたる貝殼に正しき圓孔あるは多く此の類の禍にかゝりて死滅したる不幸なる貝類の遺殼なりとす、此類は自己の殻の周圍に寒天質を以て被はれたる卵を産出するを以て其卵塊は徑六寸許の一方開きたる領子^{クラ}狀を呈す。

ヘソクリは球狀指頭大にして帶白色の地に黒色の斑点を有し、表皮厚く、食用に供せらる、岡山縣下にてはハイガヒ等の養殖に大害をなすを以て

す。

オホヘビガヒは本邦中部に産し、縦脈を有せる小指大の螺層は蛇の如く不規則に蟠旋し、螺塔は扁平となりて岩石等に附着す。

ミニズガヒは**ヘビガヒ**と同科別屬にして、螺層は相離れて不規則に螺旋せるを以て外觀さながら蚯蚓に似たり、前種よりも著しく小形にして、殻の全長に通じて其上面に裂目或は列孔を有し、厩は螺旋して外方に隆起せり。

ソデガヒ類 (The Conch Shells)

此類の殻は磁質重厚、殻口狹長にして前後溝よく發達し、成熟せるものにおいては外唇厚くして擴張す、厩は角質鈎狀にして其外縁は鋸齒狀をなし、足は前方狭く、後方廣く、吻は伸縮自在にして、眼柄より觸角を生じ、齒舌はよく發達し、水管短し、其習性敏活にして主として腐肉を食し熱帯の珊瑚礁等に最も多く發見せらる、殻は磁器及

石灰製造に使用せられ往々伊太利式カメオ彫刻の原料となり、又其肉を食用に供する所ありと云ふ。

イボソデの殻は長さ凡三寸、背面白く大なる結節を具へ、殻口は淡肉紅色を呈し、外唇は袖狀をなして其縁の前後溝に近き部分に二ヶ所宛の凹部あり、内唇の滑層は廣くして美麗なる眞珠色をなし全腹面を覆ふて螺塔に達す、之に似たる者に**マヒノソデ**あり。

マガキガヒは芋貝形にして芋貝と誤られ易きも外唇の前面に凹所あるを以て識別することを得べし、元來芋貝には毒を有し敵に嚙付くものあるを以て、此貝も亦敵の目に有毒と誤認せられ、其呑食を免るゝことあるべし、此の如き現象を擬体と稱す。

スイジガヒは前記二種と同科別屬にして其殻大きく其刺四方に對出し略ぼ水字形をなすを以て、古來往々此貝に火難除の効ありと迷信し、遂に火

は截切状をなし、後方狭窄し、足より一絲を分泌して自己の体を懸垂することありと云ふ、此類は往々浮べる海藻に附着し、附着せざるときは伸縮自在なる其狭足によりて急匍し、若し之を刺激するときには忽ち一種綠色の液を射出す、總ての腐敗せる有機物を食し、螺類の分泌せる粘液さへも食すと云ふ、化石五百種に近く、始新統の化石なる一種 (*Cerithium signatum*) は長さ二尺に達す、多くは海岸に群棲し西印度諸島にありては手網の一掬を以て退潮に残されたる海濱の水溜中より此類の數百個を採集し得べしと云ふ。

コオニツツノガヒは長一寸五分ばかり、本邦南部に産し、殻に縦脈を有し、密接せる螺脈は曖昧なる縦肋と相交りて不規則なる波状を現はし、一体に粗澁の觀を呈す、外唇稍や擴張し、殻口小さく、前後兩溝を具へ、表面は汚白色、口内は磁白色なり。

カニモリガヒは長さ一寸餘、本邦中部に産す、殻は螺脈上に多數の小結節ありて略ぼ不規則なる縦列をなし、白地に淡褐色ありて口及外唇上に栗色線を認む、其死殻に寄居蟲を宿すこと多きにより之を蟹守と名づく。

ウミニナは**カニモリガヒ**よりも短形にして水管溝極めて短く、内外共に黒色なれども殻面に鋪褐色の汚物を被ること多し、形状彩色變化に富み長さ五分位より一寸餘に及び結節の著否、白帯の有無等一々形容し難し、本邦各所に産すれども主として暖帯に饒産す。

へビガヒ類 (The Worm Shells)

此の類の殻は管狀にして隔壁を具へ、幼時は規則正しく螺旋せるも成長するに従ひ不規則に屈曲す、殻口圓く、圓き唇あり、動物は蠕形にして頭長く、觸角及眼を具へ、足は不完全なり、大抵海中の岩石、珊瑚礁等に附着し、或は海綿中に埋在

にして、卵は体内或は体外に於て孵化す、此類は分布極めて廣く、半鹹水産、淡水産、或は両棲のものなきに非ざれども概して干満兩潮間の岩上に群居し、歐洲の市場にありては貧民及中流社會の食物として此類中の或種を賣買し、又或種は魚類の餌食となり、**タマキビ**屬のみにても全地球上に産する者百五十種に及び本邦に數種を産す。

タマキビは本邦の中部及北部に最も普通にして其形狀玉蜀黍粒に類似し、其大さは稍や之に過ぐ、螺頂尖り、殻面に數條の螺肋を具へ、栗色の地に白帶白點を有し、海岸の岩上に無數に附着し、之に手を觸るれば直ちに轉び落るを常とす。

カハニナ類 (The Black Snails)

此類は世界中に四百種を産すれども邦産は變種を合して十數種に過ぎず、最大なる者は長さ三寸に近く、形は球狀より針狀に至り、布目狀或は結節狀の彫刻を有し或は平滑なり、主として南部歐

羅巴、印度、太平洋中の諸島等舊世界の暖地に産し、フイリツピン産を最も美麗なりとす。

カハニナ及び**カゴメカハニナ**は本邦到る所の淡水に普通なる黒色長形の小貝にして暗色の表皮を被り往々食用に供せらる。

イボカハニナは**カハニナ**よりも細長にして表面に結節を有し、琵琶湖及其流域に普通なり。

オニツノガヒ類 (The Horn Shells)

殻は螺塔高く、螺層多く、殻面に結節を刻し、殻口の前方に水管溝を具へ、唇は角質にして螺脈を有し、動物は頭部に短き吻と、細長の觸角と、有柄の眼とを具ふ、**オニツノガヒ**科は熱帶、亞熱帶産の一大科にして岩礁或は海藻中に棲息し、淡水或は半鹹水中に住するもの數種あり、或種は沼澤中に生ずる樹幹に附着して多時水外に生活すと云ふ。

オニツノガヒ屬の動物は体に溝を有し、前方

れ、眼は觸角の基底に位し、齒廣く、其端は鋸齒狀を呈す、外套腔内の鰓によりて呼吸し、胎生す、肉は往々食用に供せられ、或地方にありては上己の節に必ず之を食す、美味なれども不消化にして劣等の食物たるを免れず、我國及暹羅に於ての外之を食用に供する所なしと云ふ。

周縁の圓きものをマルタニシと稱し、大形にして周縁に角を有するものをオホタニシと稱し、其角最も鋭くして長形なるをナガタニシと名く。

ヤマタニシ類

此類は陸産にして鰓なく、其代りに頸部の背上に網狀組織をなせる囊狀の肺腔を具へ、動物の形狀は多少タマギヒ類に類似し觸角は其先端尖りて細長なる絲狀を呈し、他の海産螺類の觸角と等しく收縮し得るも蝸牛類の觸角の如く裏返すこと能はず、眼は觸角の外基部に位し、蝸牛の眼の如き眼柄を有せず、螺脈を刻せる圓形の厝を有し、

螺塔の高低種々にして、多くは臍孔を有し、殻口圓く、口縁は往々反曲せり、雌雄は蝸牛類と異なり異体にして、發生はタニシ類と異にして卵生なり。

ヤマタニシは螺塔稍や高く、螺層は凡そ五階を數へ、急劇に増大し、臍孔深く、厝は角質にして少しく凹み、其中心に核を有し、殻面に褐色の表皮を被り、周縁下に栗色の廣帯を匝らす、本邦到る所の山間、村落、叢地の落葉、土壤中に埋住し、樹上に上ること少なし。

タマギヒ類 (The Periwinkles)

殻は小形球狀或は獨樂形にして眞珠質ならず、殻口は卵形或は圓形にして口縁全く、外唇簡單にして、内唇は厚く且つ扁平なり、厝は角質にして、螺脈少し、動物は吻短廣にして、眼は長き觸角の外基部にある膨脹部に位し、足は廣くして其前後兩端共に方形を呈して縦に分かれ、齒舌は狹長

臍孔なく、臍部は紫色なり、厖は紅紫色を彩り美麗にして玩具とすべし。

キサゴ類

此の類の殻は扁平にして、概ね臍孔を欠ぎ外面平滑にして、厖は角質なり、以前はサラサバテイ科中に編入せられ居たり。

キサゴは本邦中部に産し、厚き小レンズ形をなし、彩色斑紋多様にして女兒の玩弄に供せらる、**イボキサゴ**は縫合に低結節を具へ、**ダンベイキサゴ**は大形にして表面平滑なり、殻の外層を去れば美はしき眞珠層を見はすを以て玩具となすを得。

アマガヒ類 (The Sea Snails)

殻質堅固にして臍孔なく獨樂形より皿形に至るまで種々の變化あり、内部の隔壁は吸収せられ、体層極めて大きく殻口内に見はれたる筋痕は馬蹄形をなし、内唇廣く、厖は石灰質にして内面に齒狀突起を具へ、其一ヶは内唇の後方に關節す、動

物は吻短く、齒舌長くしてよく發達し、觸角長く、眼は其外基部にありて有柄なり、鰓は三角形をなし左側に只一ヶあるのみ、此類は濱海産の一大科にして熱帯及亞熱帯の海、又は半鹹水、又は淡水に産し多くは低潮線附近の岩上に群棲し夜間に活動して海藻等の植物質を食すと云ふ。**アマラフネ**屬は凡そ二百の現生種と六十種の化石とを有し、本邦にも十數種を産す。

アマガヒは長五分ばかり本邦中部に産し、黒地に粗らなる白點あり、海濱の岩石上に**タマキビ**等と共に普通に發見せらる。

(櫛鰓目—紐舌亞目)

タニム類 (The Pond Snails)

最も普通なる淡水産貝類にして殻は帶綠灰色卵形を常とし、表皮を被り、口縁完全にして水管溝或は切込等を有せず、厖は渦脈を有し、足大きく、吻短く、雌雄異体にして、雄にありては右觸角脹

厩は石灰質より成り、重厚にして外方凸く、内方平坦なり、動物の足は卵形なれども其前方は方形を呈し、其兩側に觸鬚を具へ、頭部には一對の長觸角間に面被狀部を有し、眼は長觸角の外基部に位せる短柄上にあり、齒舌はよく發達して植物を食し、暖海に産す。

ヤクウウガヒ(夜光貝又屋久貝、*Yakuon Snail*) 殻

は往々人頭大に達し、螺塔低く、螺層少く、肩角著しく、大なる螺肋上には鈍き結節を具へ、体層大きく、殻軸凹み臍孔を有せず、新鮮なる標品にありては褐白の雜斑を有せる深綠色の角質外層を被れども之を磨消すれば蛋白石様の美質を顯はし、更に之を磨消すれば内外一様の眞珠質となり綠勝なる虹彩を呈す、西洋にては往々暖爐の裝飾に用ひ、本邦にては切りて杯、鈕釦、玉、印材等を製す、薩隅諸島以南の産なり。

ササエは拳狀の殻を有し、螺層に管狀の突起を

有せる者と有せざる者とあれど別種に非ず、表面は暗青色を呈し、其石灰質を剝離すれば美麗なる眞珠質を露出す、本邦西南の海に産し、東北には少し、其肉美味にして壺焼となす、殻は昔時鑛坑内の燈皿に代用し、或は切て七或は杯を作り、厩は磨きて碁石を製したりと云ふ。

スガヒは高六七分、表面に結節狀の數螺肋を繞らし、汚褐色にして、其石灰質の厩を酸液上に浮ぶれば、溶解の際回旋するを以て小兒の玩弄品となる。

リンボウガヒ(輪寶貝) は体層の周縁に長刺を具へ、車輪狀の外觀を呈せるを以て此名あり、此貝は生長の際其刺を除去するの能あるを以て、上層にありては只刺の痕跡を残せるのみ。

ウラウツガヒは本邦中部に産し、少しく傾斜せる小圓錐形にして周縁に斜めの刺狀隆起を有し、菊花様の外觀を呈し、底面平たく、渦狀脈を有し、

麗なり。

バテイラ類(馬蹄螺)(The Top Shells)

此類の殻は概して圓錐形を呈し、厝は角質にして薄く、核は其中央にあり、動物は頭短く、鼻廣く、觸角長く、眼は簡單なり、齒舌はよく發達し、外套縁の兩側に三ケ乃至五ケの多肉なる觸鬚を具へ、左側に一ケの鰓を有す、卵は一團をなして岩礁或は海藻等に膠着せらる、主として熱帶及び亞熱帶に産し、藻類を食し、殻の美麗なる者多く、内部は皆眞珠質なるを以て、大形なる者は往々腕環、鈕釦等に製せらる。

サラサバテイ(“Great Top Shell”)又は高瀬貝

は此類の最大最重なる種にして正圓錐形をなし、高さ四五寸、上面は白地に暗紅色の電光狀放射線を飾り、底面は平坦にして鮮紅色の火焰狀斑紋を有す、琉球以南に産し、鈕釦製造の原料となり、盛に南洋より輸入せらる。

ニシキウツはサラサバテイよりも著しく小形にして、高さも徑も共に一寸五分内外に過ぎず、螺肋は小顆粒狀を呈し、淡紅、紫黒、青色、白色等の點紋を雜彩す。

イシダタミは高さ六七分、螺塔は乳房狀を呈し、彫刻粗く、美麗なる石疊狀をなし、橄欖色の地に往々褐色の斑紋を雜ふ、本邦所々の海濱に産し、**スガヒ**、**レイシ**、**クボガヒ**、**ヨメガカサ**等と共に食用に供せらる味美なり。

コシタカガンガラは螺塔稍や高く、臍孔を有し、極めて粗雜なる斜肋を刻し、汚白色の地に黝色の斑紋を雜へ、外觀は寧ろ暗灰色を呈し、一見稍や鶏糞に似たり、臍孔附近は綠色の滑層を有せざるを以て容易に**クボガヒ**、**クマノコガヒ**等と識別することを得べし。

サザエ類(象螺、拳螺)(The Turban Shells)

此類の殻は重厚なる獨樂形をなし、殻口圓く、

しものは耳形を呈し、左側に一列の孔を穿ち、厝を欠ぐ、足は大形、多肉にして總を具へ、外套の切込は列孔に沿ひ、觸角狀の鰓絲は各孔より出で、鰓を洗つて流るゝ水は此等の孔より流出し、最後方の一孔は肛門となり、腸よりの排泄物を放出す、又一對の長き觸角と、一對の短柄眼とを具へ、海底の岩礁に附着して離し難く、殻面に角質の表皮を被れるを以て岩石と識別し難し、一屬七十餘種あれども歐洲には只一種を産し、本邦には只數種あるのみ。

アハビ ("Giant Ear Shell") は殻長五六寸、一列の呼水孔は其外縁、管狀をなし、模型の火山脈に似て、終の四五孔のみ貫通す、東海道邊に饒産し、廿七八尋以下の潮流佳良なる近海に棲息し、礁上を匍匐し、カヂメ等の海藻を食す、雌雄異体にして、雄生殖器は淡褐色、雌生殖器は濃綠色を呈し、十月、十一月頃産卵するを以て、其頃の漁

獲とカヂメの濫採とを禁ずるを可とす、肉は食用に供せられ、生食に適する**オンガヒ**(一名クロ)、煮食、乾製に適する**メガヒ**及**マダカ**等の別あれども多分一種ならん、乾製品は主もに支那に輸出せられ、明鮑、灰鮑等の別あり、また其肉を以て熨斗を製し、殻は青貝細工の原料となり、又之を以て殻粉を製して漆器に塗り込み、或は扇の地紙等に附着せしめ、又薄貝を製して、殻と共に西洋諸國に輸出す、稀に眞珠を生ずることあり。

トコフシは**アハビ**と同屬にして同所に棲息し、生殖器の色等も酷似すれども、著しく小形にして長二寸餘、淡褐色にして蒼色を帯び、呼水孔は其縁低く、貫通せるもの六個乃至九個に及び、蹼は淡褐色を帯ぶ。

ミミガヒは本邦南部に産し、**アハビ**及**トコフシ**よりも狭長にして、耳形を呈し、螺塔判然せるも極めて小なり、表面は褐色に淡色の斑紋ありて美

(腹足綱—楯鰓目—梁舌亞目)

ウノアシ類(The Limpets 又“Tent Shells”)

此類の殻は皿狀にして、殻頂は中央の少し前方に位し、其發生中の如何なる時代にも決して螺狀を呈することなし、分離せる鰓羽は頸上にありて左側に位し、齒舌に中齒を欠ぐ、概して海岸に近き海中の岩礁、海藻等に附着す。

ウノアシの殻は十條内外の大なる放射肋を有せるを以て鷓鴣の蹠足狀を呈し、岩石等に吸着する力強し、筥の類を以て之を岩石より離して食用に供す。

ヨメガカサ(蠟)類(又サラガヒ、ヂンカサガヒ)
(The Old World Limpets)

此類の幼蟲はアフムガヒ狀の殻を有し、成熟せし殻は笠形を呈すれども其の變遷の状態は未詳なり、ウノアシ類とは全く別科にして、殻質或は内面の套痕及び齒舌或は鰓等によりて識別し得べき。

も、分類頗る困難なり、動物は一對の觸角を有し其外基部に一對の眼を具へ、板狀の足は大にして蹠面の中央を收縮して岩石等に吸着し、其力頗る強し、鰓は退化して僅かに其痕跡を止め、外套膜を圍繞せる一列の板狀呼吸器之に代り、岩礁上に生ずる小植物を食し、分布頗る廣し、此動狀が其殻を岩礁に引擦り齒舌を以て植物を搔食ふや、往々一種の奇響を發し、日没に及べは必ず淺孔を穿てる一定の住所に歸休すと云ふ。

ヨメガカサは本邦到る所に産し、殻の長徑凡そ一寸五分、殆んど卵形板狀を呈し、殻面には無數の放射肋を刻し、淡綠色の地に鏽褐色の斑点を散布す。

(扇舌亞目)

アハヒ(石夾明、鮑、鰓)類

(The Abalones 又“Rainbow Shells”
“Aurora Shells” “Ear Shells”等)

此類の幼殻は螺塔極めて著明なれども、成長せ

普通貝類の葉

(雙神經綱—多板殻目)

ヒサラガヒ類(又チイガセ、石魁)

(The Chitons 又 "Coat-of-mail Shells")

(1)

此類は夜間に活動する草食類の動物にして外套膜と足と鰓とを有するを以て軟体動物たること疑を容れず、其齒舌を有すること、足の状態とは頗る腹足類に類似せるを以て或る學者は之を腹足類中の最下等なる者とせるも、其殻は八枚の殻片より成り、内臓は眞直にして左右相稱なるを以て之れが爲めに別に雙神經類なる一綱を設くるに至れり、而して此八枚の殻片は覆瓦狀に相連り革様の肉帶中に埋まり、全体は小判形を呈し、足は全腹面を占め、外套は全体を圍み、鰓は外套と足との間にある溝内に附着して一帯の總をなし、頭は胴と區別し得べきも一小突起たるに過ぎず、觸角を

欠き、概して眼なく、只口を有するのみ、齒舌はよく發達し、雌雄異体にして、卵群は繩狀或は團塊をなし、其肉は往々貧民の食用となる、主として熱帶及溫帯に産し、大抵海底軟泥質にして干潮に露出する所の石下等に採集せられ、砂濱或は百尋以下に發見せらるゝこと稀なり、此類は夜間其巢窟を出で、腐敗せる海藻等を集り食し、徐々に一定の礁隙等に歸休す、採集の法は鈍小刀を突然其足下に挿入して之を岩礁より脱離し、潤ひたる木板上に吸着せしめ、絲を以て手早く之を捲繫し、然る後、之を乾かすにあり、然らざれば動物は腹方に彎曲して球狀の標本となるべし。

ヒサラガヒは長さ凡そ七八分、殻片廣く、其内面は褐黑色を呈し、肉帶上には小突起を密生し、褐色と蒼白色を交彩す。

四 四 ヲ ス レ ガ ヒ (Sanetta)

盟 五 オ キ シ ヲ ヴ ミ (Cyclina)

奥 奥 オ ニ ア サ リ (Protothaca)

奥 奥 オ キ ア サ リ (Gomphina)

奥 奥 ア カ リ (Tapes)

ビノスガヒ科 (Veneridae)

美之主貝亞目

Veneracea

47 ト リ ガ ヒ (Cardium)

XIII シ ヤ コ (Tridacna)

奥 奥 カ ル ノ カ シ ラ (Chama)

奥 奥 マ ス ホ ガ ヒ (Psammobia)

奥 奥 イ ソ シ ヲ ヴ ミ (Solenotellina)

48 オ ホ ノ ガ ヒ (Mya)

XIV ミ ル ク ヒ (Tresus)

49 ア カ マ テ ガ ヒ (Solen)

50 ア ギ マ キ (Solenocurtus)

XV ツ ヲ ガ キ (Aspergillum)

XVI ア フ ヒ ガ ヒ (Argonauta)

XVII ア フ ム ガ ヒ (Nautilus)

カルデイズム科 (Cardiidae)

シヤコ科 (Tridacnidae)

キクザル科 (Chamidae)

アシガヒ科 (Psammobiidae)

オホノガヒ科 (Myidae)

カモジガヒ科 (Lutrariidae)

マテガヒ科 (Solenidae)

ハバユフ科 (Clavagrellidae)

タコゾネ科 (Argonautidae)

アナムガヒ科 (Nautilidae)

カルデイズム亞目

Cardiacea

菊猿亞目

Chamaacea

大野貝亞目

Myacea

翁貝亞目

Aurimacea

二鰓目

Argonautidae

四鰓目

Nautilidae

(八腕)

(鰓鵝貝亞目)

壳 ミ ノ ガ ヒ (Lima) リ マ 科 (Linnidae)

38 カ キ (Ostraea) イ タ ボ ガ キ 科 (Ostracoidae)

XI タ ヒ ラ キ (Perna) タ ヒ ラ キ 科 (Pernidae)

39 ウメノハナガヒ (Parvilucina) イセシラカヒ科 (Lucinidae)

40 マ シ ヴ ミ (Corbicula) シレナシ ヴ ミ 科 (Cyrenidae)

壳 フ ズ シ ヴ ミ (Sphaerium) フ ズ シ ヴ ミ 科 (Sphaeriidae)

41 フ ズ ガ ヒ (Anodonta)

XII カ ラ ス ガ ヒ (Cristaria)

四 イ ケ テ フ ガ ヒ (Hyriopsis)

四 イ シ ガ ヒ (Nodularia)

壳 イ テ フ シ ラ ト リ (Tellina)

カ ク ラ ガ ヒ (,,)

ナ ミ ノ コ (Donax)

バ カ ガ ヒ (Maetra)

ハ マ グ リ (Meretrix)

壳 ヲ チ ム ラ カ キ (Saxidomus)

板市蝸亞目
Ostracoea

亞淡菜亞目
Submytila-
cea

テリナ亞目
Tellinaea

28 キクノハナガヒ (Siphonaria) キクノハナガヒ科 (Siphonariidae)

29 モノアラガヒ (Lymnaea) リム子ア科 (Lymnaeidae)

30 ヒラマキミヅマイマイ (Planorbis) フラノルビス科 (Planorbidae)

31 ヤカヅツノガヒ (Dentalium) フトツツノガヒ科 (Dentalidae)

32 ナミマダガシハ (Anomia) ナミマダガシハ科 (Anomiidae)

VIII マドガヒ (Placenta) }

33 ハイガヒ (Arca) フネガヒ科 (Arcidae)

34 サルボウ () }

35 イガヒ (Mytilus) イガヒ科 (Mytilidae)

IX テマツガヒ (Meleagrina) }

36 アコヤガヒ () }

天 ツキヒガヒ (Amusium) ツキヒガヒ科 (Amusidae)

毛 ウミギク (Spondylus) ウミギク科 (Spondyliidae)

37 イダヤガヒ (Pecten) }

X ホタテガヒ () }

無柄眼亞目
Basanotophora

掘足綱

波間柏亞目
Anomiacea

舟貝亞目
Arcaea

淡菜亞目
Mytilacea

絲鰓目

板屋貝亞目
Pectinacea

元 コロモガヒ(Cancellaria)

コロモガヒ科(Cancellariidae)

re lossa)

21 ヲ ツ ム シ(Pyrene)

タモトガヒ科(Pyrenidae)

モ ヲ ク ラ ガ ヒ(Oliva)

ジュボウナクラ科(Olividae)

元 クダマキガヒ(Turris)

クダボラ科(Turrisidae)

元 リウキウタケ(Terebra)

タケノコガヒ科(Terebridae)

22 ヲ ダ ラ イ モ(Conus)

} イモガヒ科(Conidae)

(矢舌族 Toxiglossa)

三 ナ ツ メ ガ ヒ(Bulla)

ナツメガヒ科(Bullidae)

23 ナガチカネガヒ(Cavolinia)

} ガメガヒ科(Cavoliniidae)

後 鰓 亞 目
Tectibranchia

三 ウキヅ、ガヒ(Cuvierina)

24 カタマナイワイ(Mandarinia)

25 ミスヂマナイワイ(Eulota)

26 ヒダリマナイワイ(,,)

ウスカハマナイワイ(,,)

} リツクス科(Helicidae)

有 鰓 亞 目
Stylomatophora

27 シロナムキセル(Clausilia)

四 ナミコギセル(,,)

} キセルガヒ科(Clausiliidae)

有 肺 目

六 シホバラ (Cymatium)

IV ホラガヒ (Charonia)

V バウシウボラ ()

七 ミヤコボラ (Gyreneum)

ウラシマ (Cassidea)

ヤツシロガヒ (Tonna)

コオニコゾシ (Vasum)

VI テンゲニシ (Hemifusus)

18 ナガニシ (Fusus)

ニ ニシキノキバ (Mitra)

三 ミクラリガヒ (Siphonalia)

19 バ ヌシロガヒ (Arcularia)

三 ホチガヒ (Murex)

四 レイイシ (Thais)

20 イボニシ ()

VII アカニシ (Rapana)

フヂツガヒ科 (Cymatiidae)

タウカムリ科 (Cassididae)

ヤツシロガヒ科 (Tonnidæ)

ツルビネルラ科 (Turbinellidae)

フラスシオラリ科 (Fasciolaridae)

フヂガヒ科 (Mitridæ)

エツチウバイ科 (Buccinidae)

ヨフバイ科 (Arculariidae)

ホチガヒ科 (Muricidae)

テツボラ科 (Thaisidae)

(尖舌族 Rachiglossa)

狭舌亞目 (Steno-

紐舌亞目(Taenioglossa)

(扁足族 Platypoda)

9	ワルタニシ(Viviparus)	タニシ科(Viviparidae)
八	ヤマタニシ(Cyclophorus)	ヤマタニシ科(Cyclophoridae)
九	タマキビ(Littorina)	タマキビ科(Littorinidae)
10	カハニナ(Melania)	メラニア科(Melaniidae)
10	コオニツノガヒ(Cerithium)	} オニツノガヒ科(Cerithiidae)
11	カニモリガヒ(Clava)	
11	ウミナチ(Pyrazus)	
11	オホヘビガヒ(Thylacodes)	ムカデガヒ科(Vermetidae)
12	イボソデガヒ(Strombus)	} スイシャウガヒ科(Strombidae)
12	スイソジガヒ(Pterocera)	
13	キクヌヅメ(Hippoinx)	カハチドリ科(Hippoincidae)
13	ヘソクナリ(Natica)	} タマガヒ科(Naticidae)
14	ツメタガヒ(Polinices)	
III ツグチガヒ(Ovula)		
15	ヌソガタダカラ(Cypraea)	} タカラガヒ科(Cypracidae)
16	ハナワルユキ(,,)	
16	ハチバヤウダカラ(,,)	
17	ホシダカラ(,,)	

普通教育用貝類標本目錄

甲組、乙組、丙組

1 多板殼目
Dioecoglossa

1 ヒヅラガヒ (*Liolophura*) キ ト ソ ン 科 (*Chitonidae*)

2 ヲメガ、ヲ (*Helcioniscus*) ア キ ガ ヒ 科 (*Aenaciidae*)

3 ア ハ 科 (*Patellidae*)

4 ト コ ズ シ (") } ア ハ ビ 科 (*Haliotidae*)

ニ ミ、ガヒ (")

三 I カラカバテイ (*Trochus*)

三 ニシキウヅ (") } カラカバテイ科 (*Trochidae*)

四 イシダ、ミ (*Monodonta*)

五 コシタカガソガラ (*Tegula*)

II ヤクワウガヒ (*Turbo*)

6 カ ヲ エ (") } ヤクワウガヒ科 (*Turbinidae*)

五 ス ガ ヒ (")

六 ウラウヅガヒ (*Astraea*)

7 キ サ ゴ (*Umbonium*) } キ サ ゴ 科 (*Umbonidae*)

八 ダソベイキサゴ (") } ア マ チ ナ ツ 科 (*Neritidae*)

扇舌亞目
Rhipidoglossa

柄鰓目

軟体動物分類綱要

多板殻目
Polyplacophora

(背に八ヶの板状殻を有す)

雙神經
Amphineura

綱 (左右相稱 神經は四條平行して腦前神經節に合し觸角或は眼を欠ぐ)

楯鰓目
Aspidobranchia

(鰓は両楯齒状で最古代の單殻類を含む)

楯鰓目
Pectinibranchia

(鰓は單楯齒状で外套に附着して居る有厖貝類の大部分を含む)

後鰓目
(Opisthobranchia)

(鰓は心臟の後方にあり、海産、大抵無厖)

有肺目
Pulmonata

(肺腔にて呼吸し、陸産、無厖)

腹足綱
(Gastropoda)

綱 (腹面の足を以て匍匐し大抵螺旋状の殻を有す)

掘足綱
Scaphopoda

綱 (細長の足にて泥砂中に穿入す殻は牙形にして両端開口す)

絲鰓目
Filibranchia

(鰓絲は平行して腹方に向ひ且つ反折し其間に絨毛ある連絡を有し、足に貝絲を生ず)

正瓣鰓目
Eulamellibranchia

(鰓絲は尿管にて結合せられ、其下行總管とも亦連絡して鰓の上腔をなし、前後二柱共に發達す)

瓣鰓綱
Lamellibranchia

綱 (斧状の足と瓣状の鰓を具ふ、二枚貝類の全部である)

二鰓目
Dibranchia

(一對の鰓を有す)

四鰓目
Tetrabranchia

(四ヶの鰓を有す)

頭足綱
Cephalopoda

綱 (足は口を圍みて頭部に配列し背に殼甲、或は卵嚢を有するものあり)

緒言

貝類の分類を説くには軟体動物の總論より始め、順次に綱目科屬の特徴を掲げ、然る後に種を記載するを正當となす、余の前著「貝類手引草」の如きも其一例なり、然れども此小冊子は素より標本附屬の説明に過ぎざれば紙數の嵩まんことを恐れ、先づ軟体動物綱目の表に簡單なる説明を加へ、次に目より亞目、科、屬を経て標本編成に採用したる種に至るまでの分類表を掲げ、然も部類の和名と種の學名とは總て之を目次に譲り、各種記載の條下には單に英名を掲げ成る可く煩を避けんと務めたり。

分類は最新學說によるペルセニール氏に依り。學名は萬國動物命名規約に従ひて改正せられつゝあるものを採用せり。

サルノカシラ類(キクザル科)……………五九

サルノカシラ *Clama retroversa* Lischke……………五〇

キクザル *Ch. semipurpurata* Iischke……………五〇

(大野貝亞目)

マスホガヒ類(アシガヒ科)……………五〇

マスホガヒ *Psammobolus* (*Psammobolus*) *jangara* Lam.五〇

イソシシム *Solenothina olivacea* Jay……………五〇

オホノガヒ類……………五〇

オホノガヒ *Mya arenaria japonica* Jay……………五〇

カモジガヒ類……………五一

ミルクヒ *Tresus mutabilis* Conrad……………五一

マテガヒ類……………五一

マテガヒ *Solen gouldi* Conrad……………五一

オホマテガヒ *S. grandis* Conrad……………五一

アカマテガヒ *S. gracilis* (Gould)……………五一

アゲマキ *Solenostretus* (*Vorarlina*) *constrictus* Lam.五一

(フオラス亞目)

カモメガヒ類(フオラス科)……………五三

ニホガヒ *Barnesia mantleus inornata* Pils……………五三

ウミタケ *B. fragilis* Sowby……………五三

カモメガヒ *Phaladida penina* Conrad……………五三

フナクヒムシ類……………五三

フナクヒムシ *Terebra nectatis* Linne……………五三

(翁貝亞目)

ツノガキ類(ハマユフ科)……………四五

ツノガキ *Aspergillum giganteum* Sowerby……………四五

(頭足綱—二鰓目—八腕亞目)

タコフネ類……………五五

タコフネ *Argonauta hians* Solander……………五五

アフィガヒ *A. argo* Linn……………五六

(四鰓目—鸚越貝亞目)

アフムガヒ類……………五六

アフムガヒ *Vantulus pompilius* Linn……………五七

サラガヒ類(テリナ科)……………四三

イテフシラトリ *Tritina (Merissa) diaphana* Desh. 四三

サクラガヒ *T. (Anethus) pitulala* Dkr.……………四四

ベニガヒ
T. (? Telinella) pulchella consanguinea Sowerby……………四四

ナミノコガヒ類……………四四

フチノハナ *Donax proximus* Bertin.……………四四

ナミノコ *D. australis* Lam.……………四五

ウバガヒ類(バカミヒ科)……………四五

ウバガヒ(ホツキガヒ) *Maera sachalinensis* Schrenck. 四五

バカミヒ *M. sulcataria* Desh.……………四五

シホフキ *M. veniformis* Desh.……………四五

(ピノスガヒ亞目)

ハマグリ類(ピノスガヒ科)……………四六

ハマグリ(アブラハマグリ、コンマグリ、ゴイシハマグリ、テウセンハマグリ)

Meretrix meretrix Linn.……………四六

ウチムラサキ *Saxidomus purpuratus* Sowerby……………四六

ワスレガヒ *Sineta (Sineta) exarata* Haml.……………四六

オキシムシ *Cyrtus chinensis* Chemm……………四七

オニアサリ *Pyrobacca (?) jadoensis* Lischke……………四七

ハナガヒ *Tomis (Clausinella) itara* Dillw.……………四七

附 ウメノハナガヒ(強縁葉亞目、イセミナカボ科)
P. (Parvulacina) psidium Dkr.……………四七

シコロガヒ *Antigona (Clausina) toruna* Gould 四八

オキアサリ *Gomphina donarina* Chemm……………四八

アサリ(イセミナカボ)
Types (Amygdala) philippinorum A. & R.……………四八

スタレガヒ *Paratopsis aegyptus* Phil.……………四八

ヒメスタレ *P. griffithi* Dkr.……………四八

(カルテイウム亞目)

サルガヒ類(カルテイウム科)……………四八

トリガヒ *Cardium (Purpuridea) muticum* Rye……………四八

リウキウアフビ(Hemitarthum) *cardissa* Linné……………四八

シヤコ類……………四九

シヤコ *Tritacna gigas* Lam.……………四九

(菊傍亞目)

……………四九

チリボタン *S. cruentus* Lischke.....三六
 イタヤガヒ類.....三六

ホタテガヒ *Pecten(?) yessoensis* Jay.....三七

イタヤガヒ *P. laqueatus* Sowerby.....三七
 (正瓣總目—板浦蠔亞目)

ナデシコガヒ *Chlamys irregularis* Sowerby.....三七

シヨクロウノニシキ *C. squamatus* Gmelin.....三七

ヒアフキ *C. senatoriis nobilis* Reeve.....三七

ミノガヒ類(リマ科).....三七

ミノガヒ *Lima(Radula) lima* Linn.....三八

カキ類(イタボガキ科).....三八

カキ *Ostraea(Alectryonia) gigas mitsubuchiensis* (Rosse).....三九

ナガムキ(ホヤガキ) *O. (A.) gigas* Thunberg.....三九

イタボガキ *O. densimaculosa* Lischke.....三九

カキツバタ(エダガキ) *O. (A.) imbricata* Lam.....三九

タヒラキ類.....四〇

タヒラキ *Pinna japonica* Haull.....四一

(亞淡菜配目)

シムシム類(シレナム科).....四一

マシムシ *Corbicula leana* Prime.....四一

セタシムシ *C. sandai* Reinh.....四一

ドフシムシ類.....四一

ドフシムシ *Sphaerium heterodon* Pilsbry.....四一

カラスガヒ類(ユニオ科).....四一

カラスガヒ *Cristaria pinna* Leach.....四一

メンカラスガヒ(カニ) *C. spinosa* Clessin.....四一

イケテフガヒ(ホシ) *Hyriopsis schlegelii* Martz.....四一

マツカサガヒ *Noodularia japonensis* Lea.....四一

イシガヒ *N. douglasiae nipponensis* Mts.....四一

カハシムシユガヒ *Margaritana margaritifera* Linn.....四一

ドフガヒ *Anodonta japonica* Martz.....四一

マルドフガヒ *A. alypsus* Kobelt.....四一

(チマキ配目)

ヒラマキシツマイマイ (ローヤキカド)

Planorbis (Trochidiscus) sempressus japonicus Marts. 310

(掘足綱)

ツノガヒ類(フトツノガヒ科) 310

ムカドツノガヒ *Dentalium hexagonum* Gld. 310

ヤカドツノガヒ *D. octangulum* Donov. 310

マルツノガヒ

D. (Fissidentulum) venedae (Habl.) Sow. 310

ツノガヒ *D. (Anatis) rocincaffi* Dkr. 310

(瓣鰓綱—絲鰓目—波間柏亞目)

ナミマガシハ類 311

ナミマガシハ *Anomia cyanea* Gray. 311

マドガヒ *Placenta placenta* Linné. 311

(舟貝亞目)

アカムヒ類(フネガヒ科) 311

ワシノハ *Arca nauticularis* Brug. 311

フネガヒ *A. brussii* Phil. 311

アカムヒ *A. (Saplarca) infata* Reeve. 311

サルボウ *A. (S.) loricata* Reeve. 311

ハイガヒ *A. (Anadara) granosa* Linn. 311

(淡菜亞目)

イガヒ類 311

イガヒ (イノカゴ、セト) *Mytilus crassiuscula* Lischke. 311

ヒバリガヒ *Vesella barbata* Linn. 311

ホトノギス *V. senhansi* Rye. 311

イシマテ *Lithophaga curta* Lischke. 311

(板屋貝亞目)

眞珠貝類(ウゲヒスガヒ科) 311

アコヤガヒ *Meleagrina martenyi* Dkr. 311

テフガヒ *M. maxima* Jameson. 311

アツガヒ *M. margaritifera* Linn. 311

ツキヒガヒ類 311

ツキヒガヒ *Amusium japonicum* (Melin). 311

ウシキケ類 311

ウシキケ *Sponchilus sinensis* Sowerby. 311

正 誤

目次第六頁上段第十行、(瓣鰓綱—絲鰓目—ア・ノ・ミ・ア・亞・目)と改む

同 同 第十一行、ナミマガシハ *Anomia* (*Pairo*) *cyacum* Gray と改む

同 第七頁同 第五行、「(正瓣鰓目—板甫蛎亞目)」を第八及第九行の

間即ちミノガヒ類(リマ科)の前へ置く

同 同 下段第十一行、*Hyrichis* は *Hyrichis* と改む

アンボイナ C. (*Tulipac*) *geographus* Linn. 二四

マダライモ C. (*Mures*) *ebanus* Linn. 二四

アジロイモ C. (*Taxi*) *omuria* Hwass. 二五

(後鰓目—被鰓亞目)

ナツメガヒ類 二五

ナツメガヒ *Bulla verrucosa* Gould. 二五

翼 足 類 (PTEROPODA) 二五

カメガヒ *Carolina tridentata* Forsk. 二六

クリイロカメガヒ C. *unicincta* Rang. 二六

マルカメガヒ C. *globulosa* Rang. 二六

ナガラカメガヒ C. *longirostris* Lesueur. 二六

ヒラカメガヒ *Diaria trispinosa* Lesueur. 二六

ウキツノガヒ *Cavertina edamunda* Rang. 二六

(有肺目—有柄眼亞目)

カタツムリ類(ヘリツクス科) 二六

クロイハマイマイ *Eulota* (*Eulotus*) *senckenbergiana* Koh. 二七

ミスチマイマイ *Fa* (*Fa*) *pelionphala* Ph. 二七

クチベニマイマイ *E* (*F*) *callizona* *amurensis* Koh. 二七

ヒトスチマイマイ *E* (*E*) *juhuana* Sowerby. 二八

ヒダリマキマイマイ *E* (*F*) *quarta* Desh. 二八

ウスカハマイマイ *E* (*A*) *tristis* *sibboldiana* Ph. 二八

オホケマイマイ *E* (*Pterotropsis*) *rudis* S. & B. 二八

カタマイマイ *Mandarina mandarina* Gray. 二八

キセルガヒ類 二八

マルテンキセル *Chusita* (*Psychophadusa*) *maritima* Herklots 二八

ナミキセル C. (*Stereophadusa*) *japonica* Crosse. 二八

ナミコキセル C. (*Euphadusa*) *yaku* Petz. 二八

(無柄眼亞目)

キクノハナガヒ類 二九

キクノハナガヒ *Siphonaria spira* Pilsbry. 二九

モノアラガヒ類(リムネア科) 二九

モノアラガヒ *Lymnaea* (*Rudis*) *japonica* Jay. 二九

ヒメモノアラガヒ *L.* (?) *limnophya* *peruviana* Marts. 二九

ヒラマキガヒ類(フラルノルビス科) 二九

エツチウバイ類……………一九

ハ イ *Eburna japonica* Sowerby. ……一九

タイワンバイ *E. formosae* Sowerby. ……一九

ミクリガビ *Siphonalia castidiariformis* Rvc. …一九

ムシロガビ類(ヨフバイ科)……………一九

ムシロガビ *Arcularia (Notha) hirsens* Phil. …一九

ホネガビ類……………二〇

ホネガビ *Murex tenuispina* Lam. ……二〇

アクキガビ *M. roscheli* Lischke. ……二〇

テツボラ類……………二二

レイシ *Thais (Thalassa) bronni* Dkr. ……二二

イボニシ *T. (T.) tumulosa problematica* Baker. …二二

テツレイシ(イボニシ) *T. (T.) nipponasana* Lam. …二二

アカニシ *Rapana honnana* Crosse. ……二二

コロモガビ類……………二二

コロモガビ *Canclularia spengleriana* Desh. ……二二

フトコロガビ類(タモトガビ科)……………二三

マツムシ *Pyrené (Columbella) parolina theryi* Gray. ……二三

フトコロガビ *P. (C.) versicolor* Sow. ……二三

マクラガビ類(ジユドウマクラ科)……………二三

マクラガビ *Olivæ (Siphonoma) punctellina* Lam. ……二三

ジユドウマクラ *O. (Porphyria) trisang* Lam. ……二三

サツマビナ *O. (S.) emicador* Mke. ……二三

ホタルガビ *Olivella dumia* Mawe. ……二三

リウグウボタル *Arcilla albo-callosa* Lischke. ……二三

クダマキガビ類(クダボラ科)……………二三

クダマキガビ *Turris lucanopsis* Ads. & Rvc. ……二三

タケノコガビ類……………二三

リウキウタケ *Terebra subulata* Lam. ……二三

ベニタケ *T. dimidiata* Linn. ……二三

キバタケ *T. crenulata* Linn. ……二三

オホリウキウタケ *T. marudata* Linn. ……二三

イモガビ類……………二三

タガヤサンニン *Comus (Texta) textile* Linn. ……二三

トミガヒ *Polinices manilla* Linn. 一四

ツメタガヒ *P. (Neritina) diadema* Bolten. 一四

タカラガヒ類..... 一四

ホシダカラ (タカラガヒ) *Cypraea nigris* Linn. 一四

ハチシヤウダカラ (シヤヌカヒ) *C. mauritiana* Linn. 一四

メンガタムカラ (貨幣貝) *C. moneta* Linn. 一四

ハナビラダカラ *C. annulus* Linn. 一四

ハナマルユキ *C. caput-serpentis* Linn. 一四

ウミウサギ *Oncula ovum* Linn. 一四

ツグチガヒ *O. rhodina* A. Adams. 一四

ヒガヒ *O. (Valva) rotata* Linn. 一四

ホラガヒ類フチツガヒ科)..... 一四

ホラガヒ *Charonia tritonis* Linné. 一四

ハウシウホテ *Ch. saulnae* Reeve. 一四

シホボラ *Comatium (Monoplex) tuberosum* Lam. 一五

ミヤコボラ *Gyrrinum (Bufa) rana* Linn. 一五

タウカムリ類..... 一五

タウカムリ *Cassis cornuta* Linn. 一五

(附 *C. canis* Stimps.) 一五

マンボウ *Cypraeassis rufa* Linn. 一五

ウラシマ *Cassida pila* Rve. 一六

ウネウラシマ *C. japonica* Rve. 一六

ウツラガヒ類ヤツシロガヒ科)..... 一六

ウツラガヒ *Tonna (Perdix) perdix* Linn. 一七

ヤツシロガヒ *T. luteostoma* Kuster. 一七

(狭舌強貝)

オニコフシ類ツルビネラ科)..... 一七

オニコフシ *Vasum turbellum* Linn. 一七

テングニシ *Hemifusus tenaxus* Gmel. 一七

ナガニシ類(フワスシオラリア科)..... 一七

ナガニシ *Fusus perplexus* A. Adams. 一七

フデガヒ類..... 一八

テウセンフデ *Mitra physopalis* Linn. 一八

ニシキノキバ *M. pomiferalis* Lam. 一八

イボキサコ	<i>U. moniferum</i> Lam.	六
ダンベイキサコ	<i>U. giganteum</i> Lesson.	六
アマガヒ類(アマヲブネ科)	六
アマガヒ	<i>Neria</i> (<i>Odontosoma</i>) <i>peca</i> Gould	六
(栴葜目—紐舌亞目)		
タニシ類	六
マルタニシ	<i>Vieiparus muleatus</i> Rye.	七
オホタニシ	<i>V. japonicus</i> Marts.	七
ナガタニシ	<i>V. sclateri</i> Ffld.	七
ヤマタニシ類	七
ヤマタニシ	<i>Cyclophorus herklotzi</i> Marts.	七
タマキビ類	七
タマキビ	<i>Linoria sichuan</i> Phil.	八
カハニナ類(メラニア科)	八
カハニナ	<i>Melania</i> (<i>Sriatella</i>) <i>libertina</i> Gould.	八
カゴメカハニナ	<i>M. (S.) riviana</i> Brot.	八
イボカハニナ	<i>M. (S.) multigranosa</i> Bttg.	八
オニツノガヒ類	八

コオニツノガヒ	<i>Cerithium columna</i> Sowerby.	九
カニモリガヒ	<i>Clara</i> (?) <i>kochi</i> Phil.	九
ウミニナ	<i>Pyrazus</i> (<i>Baillaria</i>) <i>multiformis</i> Lischke.	九
ヘビガヒ類(ムカデガヒ科)	九
オホヘビガヒ	<i>Thylacodes imbricatus</i> Dkr.	一〇
ミノズガヒ	<i>Siliquaria</i> (<i>Agathyses</i>) <i>cunningi</i> Morch.	一〇
リデガヒ類(スイシヤウガヒ科)	一〇
イボリデ	<i>Srombus</i> (<i>Euprotomus</i>) <i>lentiginosus</i> Linn.	一〇
マヒノリデ	<i>S. (Monodactylus) auris-dianae</i> Linn.	一〇
マガキガヒ	<i>S. (Conomurex)</i> <i>lutuanus</i> Linn.	一〇
スイジガヒ	<i>Pterocera</i> (<i>Harpagophitragra</i>) Linn.	一〇
クモガヒ	<i>P. lambsi</i> Linn.	一一
スシメガヒ類(カハチドリ科)	一一
キクスシメ	<i>Hipporyx</i> (<i>Amalthea</i>) <i>yonica</i> Schum.	一一
スシメガヒ	<i>H. phiosus</i> Desh.	一一
ツメタガヒ類(タマガヒ科)	一一
ヘリクリ	<i>Natica maculosa</i> Lam.	一一

目次

緒言	頁
軟体動物分類綱要
普通教育用具類標本目錄
(雙神經綱—多板殻目)
ヒサラガヒ類(キトン科) 一
ヒサラガヒ <i>Liolophura japonica</i> Lischke 一
(腹足綱—楯鰓目—梁舌亞目)
ウノアシ類(アラガヒ科) 二
ウノアシ <i>Acnaca</i> (<i>Collisellina</i>) <i>sacharina</i> Linné 二
ヨメガカサ類(バテルラ科) 二
ヨメガハサ <i>Helioniscus torreana</i> Rye 二
(扇舌亞目)
アハヒ類 二
アハヒ (オシガヒ) <i>Haliotis gigantea</i> Chemnitz 三
トコフシ <i>H. diversicolor</i> Reeve 三
ミノガヒ <i>H. (Tritonis) vesimina</i> Linné 三

バテイラ類(サラサバテイ科) 四
サラサバテイ <i>Trochus niloticus</i> Linn. 四
ニシキウツ <i>T. (Lampyrosoma) punctulatus</i> Linn. 四
イシタンミ <i>Monodonta labio</i> Linn. 四
コシタカガンガラ <i>Trochid</i> (<i>Chlorostoma</i>) <i>usitata</i> Gmel. 四
クボカヒ <i>T. (C.) argyrostoma basistrata</i> Pils. 四
クマノコガヒ <i>T. (C.) xanthostigma</i> A. Ads. 四
サシエ類(ヤクワウガヒ科) 四
ヤクワウガヒ <i>Turbo narmorrhatus</i> Linn. 五
サシエ <i>T. (Baillus) cornutus</i> Gmel. 五
スガヒ <i>T. (Marmorostoma) coronatus</i> Gmel. 五
リンボウ <i>Astraea</i> (<i>Guldfordia</i>) <i>triumphans</i> Phil. 五
ウラウツガヒ <i>A. (Cybæanthæ) hæmaraga</i> Menke. 五
キサゴ類 六
キサゴ <i>Umbonium costatum</i> Val. 六

はフォルマリン浸かにせねば面白くないから一切之を省いたことゝ、餘り高價の標本と大形の標本とは別に丙組として圖書の一組を作り、實物大の彩色圖版を印刷して之を補ひ、標本廉賣の主意に協ふ様にしたことである、若し實物を望まると方があつたならば特に照會せられたい、さすれば種類によりて需に應ずることが出來ると信ずる。

大正三年九月

平瀨貝類博物館主

平瀨與一郎

中學校、及高等女學校程度の正確なる教授用標本を編成して、之に稍や詳しく解説を附し名稱等の疑似誤謬を辯じ更に趣味ある事項を加へ至極廉價に之を販賣したならば、教授の參考ともなり、多少世を益するであらふとしきりに勧めて呉れるので新たに三組の廉賣標本を編した、即ち前述諸學校の教科書中に掲げてある貝類五十種を撰んで甲組とし、之に漏れた普通の貝類と他の著名な貝類とを撰んで乙組となし、成るべく普通の科を代表せしめた、また説明を試みたのは主にも甲組中の種類で、甲組の編成は下に掲ぐる諸種の教科書によつたのである、此諸種の教科書は只手近にあつたものばかりで、或は廣く世に行はれて居る教科書で余の知らなかつたものもあらう、然し此等の諸書を閲して見ると皆大同小異で、余の見るに及ばなかつた他の教科書中に記載してある貝類も大抵此外に出でぬであらうと思つたから余は此位に止めて置いた、ところが中には名稱の誤つて居ると思はるゝものもあり、圖と名と一致せぬものもあり、圖を見ればかりでは斷定の出來ぬものもあり、外國の本から取つてある圖もある様であるが、狭い専門に従事して居てさへわからぬことが多く、誤まることが多いから動物全般に渡つた教科書等に多少の誤があるのは誠に己むを得ぬことであらう。

最後に一言斷つて置かねばならぬことは、烏賊、章魚の類(頭足類)、ナメクジ、インアバモチの類(有肺類)、ウミウシ、アメフラシの類(後鰓類)、カリナリヤ、ブテロトラキアの類(異足類)等は酒精浸か或

普通貝類の栞序

余が貝類の採集と研究とを始めたのは二十餘年前の事である、採集の範圍は本邦内地は固より、北は樺太、千島から南は小笠原島、硫黃島、琉球、臺灣に及び、朝鮮、支那方面にも多少採集を試みた、所藏の日本産標本は三千餘種に上り、余の發見にかゝる新種が約千種ある、余が世界各国の學者と通信して交換し或は購求した外國産貝類の標本も約七千種に達した、余は貝類に關する智識と趣味とを普及せんが爲めに曩には「介類雜誌」を發行し、又「貝類手引草」、「千貝目錄」、「貝殼斷面圖案」、「貝千種」、「平瀬貝類博物館案内」等を出版したが、近日又「日本産貝類圖說」及「日本小貝類學」等を公けにせんとして居る、余が年來の宿志であつた、貝類博物館は昨年三月廿二日やつと開館の運に至つた、余がこれまで此事業の爲めに私財を擲つたことは誠に尠くない、余にとりては實に分過ぎて居る、余は衣食を節して此等の費用に填てゝ居る、然し余の事業は決して貝類博物館設立を以て終を告げぬ、猶ほ廣く又綿密に採集せねばならぬ、猶ほ詳しく研究せねばならぬ、貝類圖說も氣永く編纂せねばならぬ、然して何をなすにも猶ほ澤山の費用を要する、たとひ豊かならぬ余の家財を蕩盡しても猶ほ余の志の一部を成就するにも足らぬ、思へば此事業の前途は甚だ遼遠である、そこで余の友人等は余にして若し小學校、

◎ 廣 告

● 貝 類 標 本

當館は貝類研究を以て我が學界に多少の貢獻をなさんと欲するにあれば普通の標本商人と同視せざらんことを望む。
標本は特に採集者を使用し生貝を捕獲せしものなれば産地精確形態完全なり。

學名和名は精査に精査を重ね更に歐米大家の再調を煩はしたるにつき少しの誤謬なきを保證す。

總標本代價次の如し(木製容器及目錄付き、購入者の都合により紙製陳列盆及學名箋を以て木製容器及目錄に更ふることを諾す)。

種 數	大凡個數	一等品代價	二等品代價
五〇	一〇〇	七、〇〇	五、〇〇
一〇〇	二〇〇	一七、〇〇	一二、〇〇
二〇〇	四〇〇	三五、〇〇	二五、〇〇
三〇〇	六〇〇	五五、〇〇	三九、〇〇
四〇〇	八〇〇	八〇、〇〇	六〇、〇〇
五〇〇	一、〇〇〇	一一五、〇〇	九〇、〇〇
六〇〇	一、二〇〇	一五六、〇〇	一二六、〇〇
七〇〇	一、四〇〇	一六〇、〇〇	一六八、〇〇
八〇〇	一、六〇〇	二七二、〇〇	二三二、〇〇
九〇〇	一、八〇〇	三四二、〇〇	二九七、〇〇
一、〇〇〇	二、〇〇〇	四三〇、〇〇	三七〇、〇〇

荷造費及運送料等は代價の外に申受くべし。

特に珍稀のものを組入るゝことを望まるゝ時は其差額を別に申受くべし。

以上組標本は海産を主とし陸産及淡水産も多少加はるものとす。

外國産の種も需に應ずべく、當館持合なきものも取り寄せの依頼に應ずべし。

當館発行目錄に記載なき種と雖も持合のものは需に應ずべきにつき一應照會せらるべし。

觀賞用具箱 (進物用に適す)

浦のにしき 甲十二種 上桐製箱入(蓋に焼繪を以て海岸の景色を畫く) 價 金 三 圓

浦のにしき 乙廿五種 上桐製二重箱入(燒繪付) 價 金 五 圓

貝のいろく 桐箱入 一組十二種(蓋に水彩を以て海岸の景色を畫く) 價(大) 金 一 圓 二十 錢
價(中) 金 八 圓 十 錢
價(小) 金 五 圓 十 錢

濱の錦 十五種 ポール製箱入 價 金 五 圓 十 錢

兒童用標本 貝つくし 一組各十二種、ポール紙製箱入 價 一 組 金 拾 五 錢
第一より第三迄既成

其他色彩變化標本、寶貝類、芋貝類等の特殊標本を組とせしもの及び寶貝色層標本等發賣す、要望の方は往復はがきにて御照會あれ。

出版物

平瀬與一郎著 貝類手引草 全一冊

四六版總布製金文字入 代價郵稅共 金 七 拾 錢

貝類學に志す初學者の爲め、特に本邦産普通なる種類三百種を擇び最も進歩せる學術的分類に據り、各科の代表種の木版圖凡一百箇を挿入し簡單に説明を興へたり卷頭には美麗なる珍貝彩色石版圖を掲げ卷末には學和兩名の索引表を添へたり、紙質製本印刷の良否は敢て茲に贅せず、今や残り部數僅かに七十部となる。

介類雜誌

第一卷 十部

第二卷 十二部

第三卷 四部

(總目錄及索引表付)

代價郵稅共 同

金二圓三十錢
金八十四錢

介類雜誌は世既に定評あり多言を要せず今や第一卷に於て第三、第四、の兩號は品切となり更に第五、第六の各號殘本僅かに成れり不日欠號となるべきにつき希望の士は速に購入せらるべし。

平瀨與一郎著

貝千種

第一卷既刊

各册價
送料一册

金二圓五十錢
八

用紙奉書、木版彩色刷、折本仕立畫譜、美本。

現今博物學の各種圖譜の欠陥は其最も必要とせらるゝ彩色を欠いで居るとである弊館主は茲に大に感ずる所ありて自然美の標徴とも云ふべき我貝類の天然彩色を表示せる圖譜を發行して博物に志ある士の參考に資し一方に於ては萬様の變化に富める貝殻斑紋を美術工藝家に應用せられんとを希望して古來東西の等しく認めて最も優雅とする我國獨得の彩色木版畫を以て是に應せられた、第一冊は發刊早々非常なる好評にて既に初版賣切れ再版成る、第一冊收むる所海陸の貝類九十餘種和歐の名稱は勿論正確なる産地を示せる目錄を附す、専門家たらずとも一般の客問應接間の裝飾用にも適し婦女も以て樂むに足る第二第三續いて刊行す。

平瀨與一郎著

貝殼斷面圖案

(第一)

木版刷日本紙大冊

價金壹圓

郵稅金八錢

自然貝殻縦横の断面を捺刷して種々雑多なる模様を考案せられたのが此書の始まりである今其第一卷には十二種の貝殻を用ひて八十餘種の両白い而かも新らしい圖案材料を供給せられた一般美術工藝家の是非一本を欠く能はざるものと思ふ

貝類繪はがき 一組十二錢づゝ 送料二錢

第一輯 生態のり部 海産貝の肉付標本圖

第二輯 吉祥の部 目出度い名を持つてゐる貝

第三輯 紋様の部 貝の斑紋麻大圖

右第一、第二、第三共五枚一組美麗なる彩色石版刷繪はがき紙質最上。

珍貝繪はがき 五枚一組 金十二錢 送料二錢

一般蒐集品中に標本を収むる能はざる高價珍種なる貝類五種を美麗なる彩色石版にて印刷せるものにて蒐集品の完全を期し得。

芋貝繪はがき 五枚一組 金十錢 送料二錢

芋貝類八種の彩色石版刷繪はがき。

平瀬貝類博物館紀念はがき 二枚一組 金三錢 送料二錢

コロタイプ版にして一枚には館の外観及び内部陳列室の一部を他の一枚には陳列品の一部を見はせる繪はがき。

平瀬貝類博物館案内

新刊

縦五寸、横三寸、袖珍形美本、コロタイプ版口繪八枚、紙數百頁、横六號活字、定價金拾五錢送料貳錢

貝類博物館觀覽案内記にして、入場者は勿論、遠隔の士々雖も、一讀其内容如何を推知し得べく、且つ掲載せる、貝類分類説明は最新學說によれるもの、以て斯學者無二の良參考書たるべく、其他陳列品の解説は、平易にして而かも懇切専門家たらずとも一般人士の智能に資すること蓋し尠少なからざるべし、敢て一讀を乞ふ。

豫告

日◎本◎小◎貝◎類◎學◎
近◎刻◎

曩に弊館が發行した貝類手引草は當時邦文で綴られた貝類専門の唯一書たるの故を以て欠陥の甚だ多々であつたにも拘はらず一般に非常なる賞讃を以て迎へられ爲めに今や残本僅少となり再版の要求日に迫つて居る、去りながら貝類研究の現在には最早かくの如き入門書では満足が出来難くなつて來た、弊館に於ても亦第二階梯として今少し高尚學術的な而かも内容の豊富なるものを出版して今後の要求に應じたこの希望で準備中であつたが最近原稿も略ぼ纏まつたから曩きに發行した手引草の改訂増補とも見るべき該書を世に公にするに至つたのである、意味は改訂増補、名は小貝類學でも其内容は大に其の趣を異にし、記載の範圍は本邦に産する各屬を網羅し種類數實に千五百種以上、されば普通衆人の眼に觸るゝ貝族は大抵此中に收めらるゝ筈である、菊判にして多數の圖版を挿入し各屬の代表者は悉く掲載することゝなり餘程紙數を増加するため數回に分ちて出版す、乞ふ其日を待つて愛讀を賜へ。

日◎本◎産◎貝◎類◎圖◎說◎

分類雜誌の休刊後直に刊行を續ける筈であつた同書は其後ち種々なる事情に遭遇して遷延今日に至つた豫約に背いた罪は誠に申譯がない、が何時までもかかつてあるべきでないから弊館は非常なる犠牲と勇氣とを以て購讀者にも最も都合のよい様に講究した結果愈よ近日より當初の計畫と多少趣を改め或る適當なる一科宛を續々出版することゝした發行の曉は御購讀を願いたい。

貝類學名調査規定

貝類の學名調査を請求せらるゝ諸君は左記の件々承知せられんことを希望す。

- 一 標本完全にして産地の判然たるものに限ること。
- 一 當館の事務頗る繁忙にして其の餘暇に調査することなれば回答延引することあるも催促せられざること若し催促せらるゝ時は未調のまゝ返送すること。
- 一 標本の返送を要するものは返送料金を送付せらるゝ事。
- 一 調査料として三十種まで一種に付五錢三十種以上一種に付四錢の割にて標本と共に先納せらるゝ事。
- 一 なほ分類上に關する質疑等は事の長短により相當手数料を申受くるに付豫め照會せらるゝ事。

貝殼製品の發賣

貝類博物館の賣店に於て貝殼を以て製作したる各種の物品を販賣す其種類甚多く一々記しがたきを以てその大畧を爰に記す

- 寶貝にイタリヤ式彫刻せしもの
- 寶貝の各層の色彩を示す標本
- 寶貝製水飲
- 寶貝製楊子入
- 寶貝彫刻盃臺
- 寶貝製時計小付
- 蝶貝製時計小付各種
- 黒丁貝
- 夜光貝
- サッエ
- 高瀬貝
- 鮑
- 亞米利加青貝
- 同赤貝
- 烏貝等製の裝身貝、什器、其他數百點あり

こきませに色をつくしてふる具は
にしきの浦を見ゆるなりけり

普通貝類の栞

京都 平瀬介館發行

Futsu Kaiyū no Kan

Hirase Yūchirō